

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
令和元年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム  
「災害時における動物管理に関わる支援システムの実装」

採択年度 平成29年度  
実装責任者 羽山 伸一  
(日本獣医生命科学大学、教授)

## 1. 要約

本プロジェクトの最終目標は、災害時の人と動物と地域の安心/安全の促進のために、災害動物対応に関わる支援体制の整備、そして、平時からの地域の適正な動物管理体制の確立を図ることである。

災害動物対応の支援体制については、災害時の動物管理に関わる人材育成を基本に獣医師会 (VMAT: Veterinary Medical Assistance Team; 災害動物医療支援チーム)、環境省 (行政獣医師インストラクター)、日本動物福祉協会 (災害動物ボランティア) の協力連携で発展させる。

### 【VMAT】

平成31年度 (令和元年度) より、VMAT講習会は (公益社団法人) 日本獣医師会認定となり、「認定VMAT講習会」として、岡山県および沖縄県において開催した。(公益社団法人) 日本獣医師会認定となることで、VMATに関しては、本プロジェクト後も継続的に社会実装されることとなった。

### 【行政】

行政獣医師育成に関しては、基礎編2回および実践編2回実施した。また、岡山県庁の行政獣医師インストラクターが、岡山県庁主導により、県内区市町村の危機管理部局対象に、本研修会を基盤とした災害時における被災動物避難の机上訓練を実施した。

### 【市民ボランティア】

日本動物福祉協会主導の一般市民による災害動物ボランティア育成に関しては、動物福祉や災害等の基礎知識からの醸成が必要なため、平成31年度 (令和元年度) は、10回にわたる動物福祉セミナーを開催した。

### 【3種合同訓練】

VMAT、行政、市民ボランティアの3種の合同訓練では、伊勢崎市市民病院において、DMATの災害シミュレーション訓練に、VMAT、行政および市民ボランティアが加わる防災訓練を実施した。DMATは人の患者の搬入の訓練と同時並行に、VMATおよび動物行政、市民ボランティアが市民病院の駐車場内において、被災動物の救護や避難に関わるシミュレーション訓練を実施した。

### 【国際シンポジウム】

平成31年度 (令和元年度) は、「プロジェクト間連携並びに国際展開促進イニシアティブ」の採択を受け、米国より災害対応の専門獣医師を3名 (カリフォルニア獣医師会 Medical Reserve Corps の Dr. Grant Miller、米軍 CBRN 災害専門獣医官 Dr. Kelley Evans、カリフォルニア大学デービス校獣医学部救急医療専門医の Dr. Yu Ueda) 招聘し、国際災害獣医学シンポジウムを開催した。また、シンポジウム翌日には、環境省および行政獣医師と3名の講師とのクローズドの勉強会および意見交換会を実施し、今後の日本の行政としての災害対応および仕組みづくりについて意見交換を行った。

### 【行政動物愛護センターでのデータ収集および打ち合わせ】

沖縄県動物愛護センター、新潟県動物愛護センター、青森県動物愛護センター、岡山県動物愛護センター、横須賀市動物愛護センター、熊本県動物愛護センター、川崎市動物愛護センターにおいてデータ収集の打ち合わせおよび現場でのヒアリング調査を行った。

### 【米国における現地調査】

米国における災害時の動物管理システム、獣医科大学の役割や連携、地域での災害対策等についての現地調査を行った。

### 【台風19号におけるペット同行避難に関する実態調査】

千葉県、長野県、栃木県、神奈川県、茨城県、東京都の区市町村自治体を対象に、避難所でのペット同行避難に関する実態調査を行った。

## 2. 実装活動の具体的内容

### 【VMAT講習会(協力団体、日本獣医師会)】

#### 1-1

2019年7月14日、15日に岡山県岡山市において認定VMAT講習会を実施した。岡山県獣医師会、岡山県庁、岡山県動物愛護センターなど多岐にわたる獣医師の参加があった。

#### 1-2

講習会に関するアンケート結果

#### 第9回認定VMAT講習会受講者アンケート集計(総回答数42)

1.所属について(重複回答あり)	回答数
ア：研究会会員	2
イ：岡山県獣医師会会員	19
ウ：その他獣医師会会員	13
エ：獣医師会非所属獣医師	
オ：その他	8

2.参加資格について(重複回答あり)	回答数
ア：獣医師	31
イ：動物行政職員	4
ウ：動物病院勤務者	4
エ：動物愛護推進員	1
オ：その他	3

3.講義に関して	
(1)内容について	回答数
ア：よく理解できた	28
イ：普通	14
ウ：よく解らなかった	1
	感想や改善点など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドハンドアウトがあると聞きやすい。(ア)</li> <li>・テーマにより差異はあるが、理解させようと思って内容を設定しているのか否か、よくわからない内容もあった。(ア・ウ)</li> <li>・テキストとパワーポイントの説明の重複する内容としない内容があり、確認することに追われた。(イ)</li> <li>・テキストに準拠するか、スライドを事前に配布する形式を希望。メモが非常に取りづらい。(ア)</li> <li>・理解できた所と、全体像が判りにくかった所と両方あった。(イ)</li> <li>・テキストと講義内容をあわせてほしい。(イ)</li> </ul>

(2) 進行について	回答数	感想や改善点など
ア：早すぎる	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程と講義内容と時間の配分に無理なく、問題はなかった。(イ)</li> <li>・講義時間配分で、あつという間のものと長いものの差が大。(ア)</li> </ul>
イ：調度良い	30	
ウ：遅すぎる		

(3) 音声について	回答数	感想や改善点など
ア：聴きやすかった	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の先生が早口。聞き取りづらい。(ウ)</li> </ul>
イ：普通	14	
ウ：聞き取りにくい	1	

(4) 講義ごとの時間について	回答数	感感想や改善点など
ア：長過ぎる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に対してかけている時間が短いと感じた。(ウ)</li> <li>・講義によりもう少しコンパクトにできるもの、もう少し聞きたかったものが分かれたと感じた。(ア・ウ)</li> </ul>
イ：調度良い	36	
ウ：短すぎる	5	

その他、講義についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・すべての講義がスライドによるものだったが、ハンドアウトが手許にないため講義メモが取りにくい(テキストと合致しない部分も多いので)。
- ・書き写せないものがあつたので、スライドのプリントがあればよかった。
- ・スライド資料を配布してほしい。

#### 4. 実習に関して

(1) 状況設定について	回答数	感想や改善点など
ア：容易に把握できた	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に確認すべき事項の確認がうまくできず、対応に苦労した。(ウ)</li> <li>動物の受入れ要請のあと、実際に動物が搬入されたのかが判らず、施設内にいる動物の数が把握できなかった。(ウ)</li> <li>最初の説明、設定が明確に説明されており、細かい部分は自分たちで考えられるようになっていた。(ア)</li> <li>想定内。(ア)</li> </ul>
イ：普通	23	
ウ：わかりにくかつた	8	

(2) 進行について	回答数	感想や改善点など
ア：早すぎる	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや早い。(ア)</li> <li>・この手のシミュレーション実習の常とは思うが、時間は足りなかつた(しょうがないと思う)。(ア)</li> <li>・スライドが早く切り替わり見逃したものが沢山あつた。(ア)</li> </ul>
イ：調度良い	32	
ウ：遅すぎる		

(3) 内容について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この様な臨場感のある実習になるとは思っていなかったので、大変勉強になりました。(ア)</li> <li>・状況やアクシデントなど様々用意されていて十分に準備されていたと思う。(ア)</li> </ul>
イ：普通	10	
ウ：悪い		

(4) 時間配分について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時間中に災害発生から何時間経っているのかわからず、2時間半の中でどこまで把握すればよいかわからなかった。(ア)</li> <li>・定められた時間でできるだけやるのが大事。(イ)</li> </ul>
イ：普通	17	
ウ：悪い		

その他、実習についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・ありがとうございました。
- ・とても有意義でした。
- ・本部をやらせてもらい、各施設からの情報に埋もれて終わった。物資の供給、人の派遣といった機械的な仕事と、対応に判断を要するものを区別して対応したほうが良かった。チーム内での情報共有が難しかった。
- ・実際に災害発生時には今回の実習以上に色々なことが起こると考えられるので、実習をふまえて対応していきたい。
- ・実習想定に多くの条件を組み入れ、初めての講習会参加としては意義あった。
- ・アクターの皆様が素晴らしい演技をされていた。
- ・最終的な実習の報告後インストラクターからこういった対応をしたほうが良いなどの提案をそれぞれの班であれば良かったと思う。
- ・シミュレーション的な経過時間もあっても良いかも。大変良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・良い経験ができた。実習に関して、時間(日数)の経過の設定がなかったため、それがあったほうがもっとリアルになると感じられた。

5. 講習日程に関して		
(1) 開催時期について	回答数	感想や改善点など
ア：参加しやすかった	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日、しかも三連休の2日間は日程確保しやすかったが、反面2日潰されると…(ア)</li> <li>・平日にしていいただきたい。(ウ)</li> </ul>
イ：普通	15	
ウ：参加しにくかった	1	

(2) 講習日数(2日間)について	回答数	感想や改善点など
ア：長い	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日あるいは1.5日だと更に受けやすい。(ア)</li> </ul>
イ：調度良い	35	
ウ：短い	3	

6. VMAT標準テキストについて		
(1) ボリュームについて	回答数	感想や改善点など
ア：多い	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章によっては説明がもう少し欲しいところがある。また今回の講義と合っていない(記載されていない)部分がある。(ウ)</li> <li>・重い。(イ)</li> </ul>
イ：調度良い	34	
ウ：少ない	2	

(2) 印刷について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し軽いとありがたい。(イ)</li> </ul>
イ：普通	19	
ウ：悪い		

(3) 読みやすさについて	回答数	感想や改善点など
ア：良い	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要ポイントの明記、文字色を変える等。(ウ)</li> <li>・フルカラーで図表もあり読みやすい。(ア)</li> <li>・もう少し字が大きいほうが良い。(イ)</li> <li>・字をもう少し大きくしてほしい。(ウ)</li> </ul>
イ：普通	17	
ウ：悪い	3	

その他、テキストについてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。  
・何回も講習や実技の練習する機会がほしい。

7. 講習会全体		
(1) 講習会の満足度について	回答数	感想や改善点など
ア：満足	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VMATがどのような活動を実際に行っているのかを知りたかった。(イ)</li> </ul>
イ：普通	6	
ウ：悪い		

(2) 進行について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	31	
イ：普通	10	
ウ：悪い		

(3) 教室・設備環境について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや冷房が強い。(イ) ・冷房が寒かった。(イ) ・少し寒い。(イ)</li> <li>・立派な会場をありがとうございました。(ア)</li> <li>・寒すぎる。冷房設定温度低すぎ。(ウ)</li> </ul>
イ：普通	27	
ウ：悪い	1	

(4) 受講料金について	回答数	感想や改善点など
ア：安い	13	・不明、払っていない。(未回答) ・若干受講料金の減額がされても良いと思う。(イ) ・県外より参加していたとしたら、もっと安くと思う。(イ) ・共催会員無料は受けやすかった。自分の仕事とは離れたジャンルなので、有料だと受けなかった。(ア)
イ：普通	24	
ウ：高い		

その他、講習会全体についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・飲み会が楽しかった。
- ・実際に現場で対応するのはかなりハードルが高いと思われるが、災害はどこかで必ず起こるので、できるだけ協力していきたいと思います。
- ・講習会を準備いただいた関係者の皆様には感謝しております。

8. その他、何かお気づきの点やご要望等ありましたらご記入下さい。

- ・大学生の参加できる講習会があればと思います。
- ・この一回に満足せず、意識して勉強を重ねていきます。

## 2-1

2019年11月23日、24日に沖縄県那覇市において認定VMAT講習会を実施した。沖縄県獣医師会、沖縄県動物愛護センター、保健所など多岐にわたる獣医師の参加があった。

## 2-2

講習会に関するアンケート結果

第10回認定VMAT講習会受講者アンケート集計(総回答数36)

1.所属について(重複回答あり)	回答数
ア：研究会会員	2
イ：沖縄県獣医師会会員	6
ウ：その他獣医師会会員	9
エ：獣医師会非所属獣医師	2
オ：その他	16

2.参加資格について（重複回答あり）	回答数
ア：獣医師	15
イ：動物行政職員	1
ウ：動物病院勤務者	8
エ：動物愛護推進員	3
オ：その他	10

3.講義に関して		
(1) 内容について	回答数	感想や改善点など
ア：よく理解できた	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト配布がもう少し早いと、読む時間があった。(ア)</li> <li>・二日間に普段聞けない内容がぎっしり盛り込まれていて面白かった。実体験が多数あったので大変参考になりました。(ア)</li> <li>・テキストをしっかりと読み込みたいと思います。(イ)</li> </ul>
イ：普通	11	
ウ：よく解らなかった		

(2) 進行について	回答数	感想や改善点など
ア：早すぎる	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し期間が長くて良いのでゆっくりしてほしい。(ア)</li> <li>・トイレ休憩がもう少し欲しかった(女子トイレ混雑)。(イ)</li> <li>・一つ一つのボリュームが多く、初めて聞く内容もあったので詰め込みすぎた感があった。(ア)</li> <li>・講師の先生によっては早すぎた。(ア)</li> </ul>
イ：調度良い	22	
ウ：遅すぎる		

(3) 音声について	回答数	感想や改善点など
ア：聴きやすかった	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早口過ぎる。(ウ)</li> <li>・音声がかもっていたり、音量が小さかったりしており、多少聞きづらいところがありました。(イ)</li> </ul>
イ：普通	12	
ウ：聴き取りにくい	1	

(4) 講義ごとの時間について	回答数	感想や改善点など
ア：長過ぎる	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボリュームが多すぎて短いものもあった。(イ)</li> <li>・休憩が少し長いと次の集中力へとつながる。(ア)</li> </ul>
イ：調度良い	31	
ウ：短すぎる	2	

その他、講義についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・また機会がありましたら、ぜひ沖縄のためによりしくお願い致します。
- ・通常のVMATにはスキルの高い講義がある(上級過ぎる)。



4. 実習に関して		
(1) 状況設定について	回答数	感想や改善点など
ア：容易に把握できた	10	感想や改善点など ・スピードは早いのでついていくのに一杯一杯でした。現場はさらに混乱だと思います。(ア)
イ：普通	21	
ウ：わかりにくかった	2	

(2) 進行速度について	回答数	感想や改善点など
ア：早すぎる	5	感想や改善点など ・実際の状況を体験という意味ではちょうどよい。(イ)
イ：調度良い	28	
ウ：遅すぎる		

(3) 内容について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	29	感想や改善点など ・面白楽しく実施できた。(ア)
イ：普通	4	
ウ：悪い		

(4) 時間配分について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	23	感想や改善点など
イ：普通	10	
ウ：悪い		

その他、実習についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・設定について、振り返りで沖縄特有の問題等の検討にもなればと思います。
- ・実際に想定していて、先生方の演技も抜群で対応の勉強の場として良かったです。ありがとうございました。
- ・考えるきっかけになりとても勉強になった。次は現場でやってみたい。
- ・初めての参加で獣医師でしかわからない内容もあったが、避難所シェルター設営についてはとても勉強になった。

5. 講習日程に関して		
(1) 開催時期について	回答数	感想や改善点など
ア：参加しやすかった	23	感想や改善点など ・祝日は避けてほしい。(ウ)
イ：普通	9	

(2) 講習日数(2日間)について	回答数	感想や改善点など
ア：長い	6	感想や改善点など ・一日にまとめてほしい。(ア)
イ：調度良い	27	
ウ：短い	1	

その他、講習日程について

- ・東京でもお願いします。
- ・VMAT隊員は多いほうが良いが、日程詰め過ぎでは。数回に分けて、本当にリーダーになる人材を見つけることも必要では？

6. VMAT標準テキストについて		
(1) ボリュームについて	回答数	感想や改善点など
ア：多い	6	感想や改善点など
イ：調度良い	27	
ウ：少ない		

(2) 印刷について	回答数	感想や改善点など
ア：良い	25	感想や改善点など ・きれいだと思う。(ア)
イ：普通	8	
ウ：悪い		

(3) 読みやすさについて	回答数	感想や改善点など
ア：良い	19	感想や改善点など ・ポイントを太字にしたほうが読みやすいと思いました。本文の中で大事なところが埋もれている感じでした。(イ)
イ：普通	13	
ウ：悪い		

その他、テキストについてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

7. 講習会全体		
(1) 講習会の満足度について	回答数	感想や改善点など
ア：満足	31	
イ：普通	2	
ウ：悪い		

(3) 教室・設備環境について	回答数	感想や改善点など ・気候的に空調の調節が難しかったです。(イ) ・温度が低い。(イ) ・少し寒かった。(イ)
ア：良い	20	
イ：普通	10	
ウ：悪い		

(4) 受講料金について	回答数	感想や改善点など
ア：安い	8	
イ：普通	19	
ウ：高い		

その他、講習会全体についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

- ・大変貴重なご講演を素晴らしい先生方により受けることができ大変勉強になりました。また、今まで気付かなかった部分にも多く気付きと学びを得ることができました。全国的な統一のカリキュラム以外の沖縄特有の起こり得る問題についても講師の先生方に知っていただくことで今後有事の際に遠隔地からの支援のあり方等の参考になるかと思えます。島群(他県と接していないため、内地からの援助困難・時間がかかる) / 在日外国人のペットについて(米軍のみならず) / 交通の分断 / アプローチ / 米軍や自衛隊との協力 / 気候による感染症や熱中症 / ハブ等の危険生物からの動物の隔離対応 など
- ・もう少しゆっくりじっくり各先生のお話をお聞きしたかったです。
- ・大変勉強になりました。シミュレーション実習は回数を重ねないと実際に動けるようになるまでの練習にならないかなと思うほど濃かったです。
- ・飲み会でも普段お話できない先生方とお話できて有意義な時間を過ごせてとても良かった。もっとVMATが広がっていきますように。
- ・また受講したいです。
- ・2日間ありがとうございました。
- ・VMATと直接関係のない講義が多い。

8. その他、何かお気づきの点やご要望等ありましたらご記入下さい。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・下の方のスライドが見えにくかった。
- ・講義の中でもテキストをもっと活用してほしい。
- ・色々と勉強になりました。ありがとうございます。

### 3-1

認定VMAT講習会プログラム(共通)

#### 1日目

- 10:30～ 受付開始・開場
- 11:00～11:10 開講式・オリエンテーション
- 11:10～11:40 広域支援と災害対応(羽山伸一)
- 11:50～12:50 災害獣医学概論 / ICS(田中亜紀)
- 12:50～13:50 昼食
- 13:50～14:50 行政の取り組み(岡山県/沖縄県)
- 15:00～16:30 災害時の公衆衛生(佐伯 潤)
- 16:40～17:10 逸走動物の管理(羽山伸一)
- 18:00頃～ 情報交換会(事前申し込み)

#### 2日目

- 9:00～ 9:50 災害時における野生動物救護(皆川康雄)
- 10:00～10:50 災害時のシェルターメディスン(田中亜紀)
- 11:00～11:20 試験
- 11:20～12:20 昼食
- 12:20～15:15 シミュレーション実習、発表
- 15:20～16:00 修了式・記念撮影

### 【行政災害人材育成研修会(協力団体:環境省)】

#### 4-1

行政獣医師対象の行政災害人材育成研修会の基礎編を下記の通り東京および大阪で開催した。

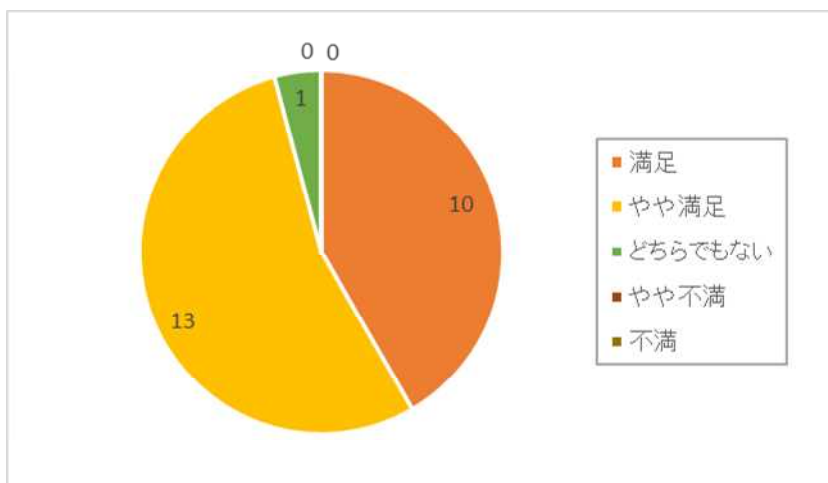
(1)1回目は7月24日、25日東京(日本獣医生命科学大学)において開催

自治体職員(獣医師)が30名(定員30名)参加。

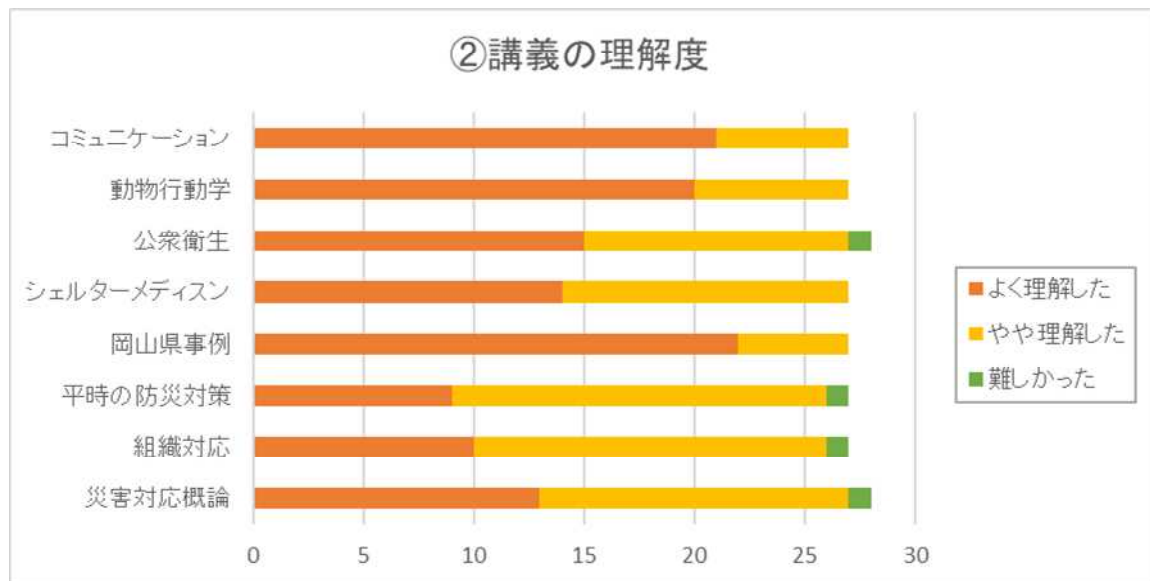
(2)研修会に関するアンケート調査結果

2019/07/24-25 災害派遣人材育成研修会@大阪 アンケート集計結果

Q1. 今回の研修会は全体を通してどの程度ご満足いただけましたか？



Q2. 各講義について、①講義時間 ②理解度 はいかがでしたか？また、③各講師へのご意見・ご質問などありましたら、ご自由にご記入ください。



### ③. 講師へのご意見・ご質問など

#### 1. 災害対応概論(日獣大・田中)

- もう少しじっくりお話が聞きたかったです。
- 聞き取りにくい。
- 災害についての用語や考え方がわかりやすかった。
- 災害の役割分担(実行部なのか広報なのかロジスティックなのか)についてもっと知りたい点があった。シェルターなどの終了点の見極めについても興味がありました。
- もう少しゆっくりした口調でできたら、もっと聞き取りやすかったと思います。
- 早すぎてなにを言っているのかが不明。また、なにを主要点として伝えたいのかも理解できなかった。伝わるためのテクニックは必須。(※)
- ボリュームが多い。
- スライドの情報量と比べて言葉の情報量が多く、ついていくのが少し大変でした。

#### 2. 災害時における組織対応(環境省・田口)

- 組織対応についてわかりやすかった。本県においても早急にマニュアル等対早急に整備したい。
- 獣疫行政はすごく誤解(一部の人達はわざと自分の都合のいいように誤解しているのかもですが…)を受けている分野だと思います。しっかり『納税者たる人間のための法律です』を示してほしい。
- パンフレット(ガイドライン)に記載されていること以外についても説明して欲しかった。

#### 3. 平時の防災対策(環境省・田口)

- 災害時の連絡先としてインプットした。

#### 4. 災害対応 岡山県での事例(岡山県職員・橋本)

- 実際の対応をもとに具体的な取り組みをご紹介していただけてとても参考になりました。
- 実際に体験された方のお話は大変参考になりました
- 大変役に立つ。わかりやすく的確な説明であった。
- 実際の対応について貴重な話を聞くことができた。
- 大変貴重なご体験のお話ありがとうございました。もう少し長くお話いただいて、市民からの要望、苦情やそれに対応したお話などもお聞きしたいです。
- 実際に体験したお話をしていただき、大変参考になりました。
- わかりやすく、本当に役に立つ情報の提供ありがとうございました。
- 災害対応時の話を聞けて良かった。
- 実際に災害対応に当たった方の話を聞くことができて、ためになりました。

#### 5. 災害時のシェルターメディスン(日獣大・田中)

- つい個別管理に目が行きがちなので、群管理という考え方が大変参考になりました。
- 内容が良かったです。
- 具体的な例も交えてもらいわかりやすかった。予後不良の動物の安楽死については賛同ですが、獣医師としてきちんと説明したとしても納得してもらえず、ネット等で叩かれ拡散されてしまう現状があり、その部分については全国的に同じ対応をしないと難しいと感じています。
- もっといろいろと知りたい点があった。2コマに分けてもっと聞きたかった。
- (※)と同じ。残念です。

#### 6. 災害時の公衆衛生(帝京科学大・佐伯)

- もっと詳しく聞きたい話がたくさんありました。
- 大変役に立つ。多くの内容で時間が足りませんでした。

- 細かな病原菌の分類の話等は不要では。内容は非常に有用な点も多いため、もっと論旨を絞ったほうが良いと思います。
- 量が多い。

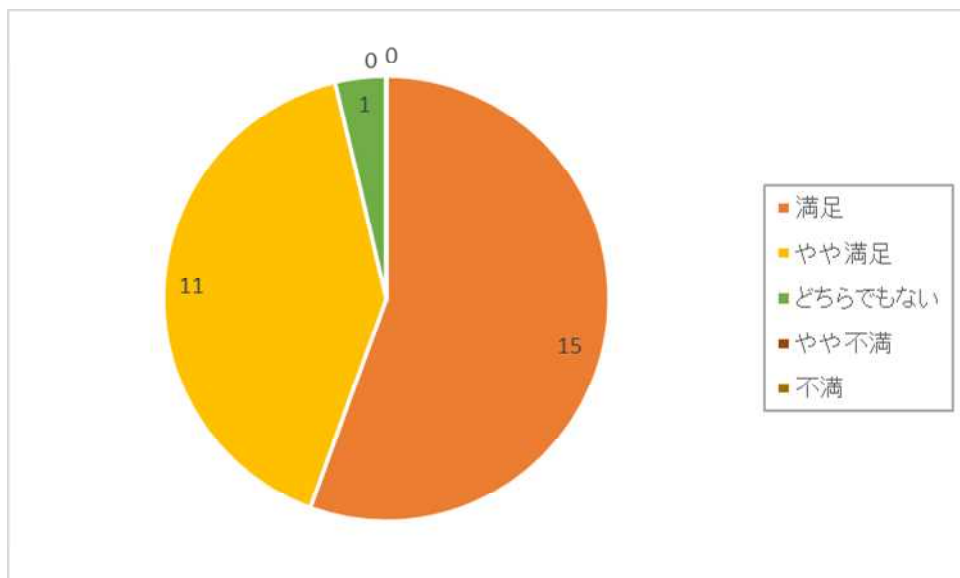
7. 災害時の動物行動学(行動学専門医・入交)

- 動画や写真で実際の行動が見れたので良かったです。
- 犬を飼っていないので、自分でも勘違いしていたことがありました。
- とても聞き取りやすく、大変勉強になりました。
- 普段の動物管理にも役立つ行動学の内容で知らなかったことばかりで大変興味深かったです。明日からの動物管理や市民の相談に役立てると思います。
- とてもわかりやすく勉強になりました。めざましテレビの今日のワンコでナレーションが犬の気持ちを違うことを行っているのが気になっています(電車を怖がっているのに大好きとか)。
- カーミングシグナルの説明がすごくわかりやすかった。実際の映像がすごくわかりやすくイメージが湧いた。とても良かった。
- 動物の行動学について、より深く理解できたと思います。
- 非常にわかりやすく、また事例も多く、参考になりました。
- 映像を交えた講義でとてもわかりやすかったです。

8. コミュニケーション(行動学専門医・入交)

- 災害時に限らず飼い主等とのコミュニケーションスキルを学べて良かった。
- 傾聴を基本しているが話がそれて長くなりすぎた時の話の止め方が難しく思っています。
- スキルアップが大切なことが分かりました。
- 問題となるのはなにを言っても理解してくれないクレマーだと思えます。
- 犬語のわからない犬について、ビデオで見てよく理解できて良かった。

Q3. シミュレーション実習はどの程度ご満足いただけましたか？



Q4. シミュレーション実習に関して、なにかご意見・ご質問などございましたら、ご自由にご記入ください

- 講師の先生方の演技が非常にリアルで実習に緊迫感が出ました。ありがとうございました。
- 自身のことで精一杯で本部との情報共有やほかの場の状況把握が全くできなかったなあと反省しました。良い体験ができました。

- 何をしたら良いのか咄嗟に思い浮かばず苦労した。実際に災害が起こったときではなくて良かったです。
- 実際の設定を想定して作り上げていくことで、今後なにが必要になるかイメージしやすくなりました。頭数管理は大事ですね。
- 情報共有は重要だが、混乱時は特に難しい。
- 後になって、あれも忘れてた、ああすれば良かったなど、反省点がいっぱいでした。本市ではシミュレーションのような大規模受入施設がないので、どうすればいいか考えていく必要性を感じました。
- 追加される条件付与によって、重要なポイントや課題が分かってくところが非常に良かった。
- かなり濃い内容のシミュレーションでした。このシミュレーションを受けた人がこの先増えるといいと思いました。
- 初めての体験でしたが非常に有益でした。
- 実際に同じように、なにをやっても良かわからなくなることがよくわかった。ガセネタや同じ依頼が何度も来たりすることがリアルでした。
- シミュレーションをしてみても本当に混乱してしまいました。実際は比べようもない程と思うが、シミュレーションでも経験してみても良かったです。
- HUG ゲームを行ったことがあったのにさっぱり大変でした。
- オーダーの主語は明示して欲しい。
- はじめに与えられた情報量が少し足りないと感じました。
- もう少し設定の条件がある方が進めやすいと思います。
- 難しかったが大変勉強になりました。
- VMAT でも実習したが、また違った雰囲気や感じで良かった。
- 支部内で役割が曖昧になっていた(本部との渉外を渉外以外がやっていた)。本部になにを依頼したのか、回答が返ってきたのかの整理ができなくて大変さを感じた。
- 本部からなのか単なる情報なのかのわかりにくかった。色分け等したほうがわかりやすいと思いました。

**Q5. 今後取り扱ってほしい講義・実習内容がありましたらご記入ください**

- 別の担当のシミュレーションもしてみたい。
- 現地対策本部・動物救護所の運営方法の具体策。ロジスティック、リエゾンの技術的内容。
- 事例報告。

**Q6. 研修会に関してご意見などございましたら、ご自由にご記入ください**

- 今後も全国各地で開催してほしい。自治体単位で講師として派遣していただければ…。
- 基礎研修として十分な内容でした。今後の地域での活動に大変役に立ちます。ありがとうございました。
- いずれの講習も大変わかりやすく、非常に参考になりました。
- また参加できることを楽しみにしております。
- 動物行動学をもっと深めたいと思いますが…。
- 一般行政職であり、専門的な内容は「？」の部分が多かった。
- 実践に使い内容を教えてもらえて勉強になりました。
- 楽しかったです。
- ご多忙の中、今回のような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。またこのような研修の機会がありましたら、ほかの人が率先して参加できたらと思います。
- 私は VMAT 研修や環境省の机上訓練も受けているが、それぞれの立場の人間が一同に会する研修会も開催してほしい(基礎編受講者のさらなるブラッシュアップとして)。



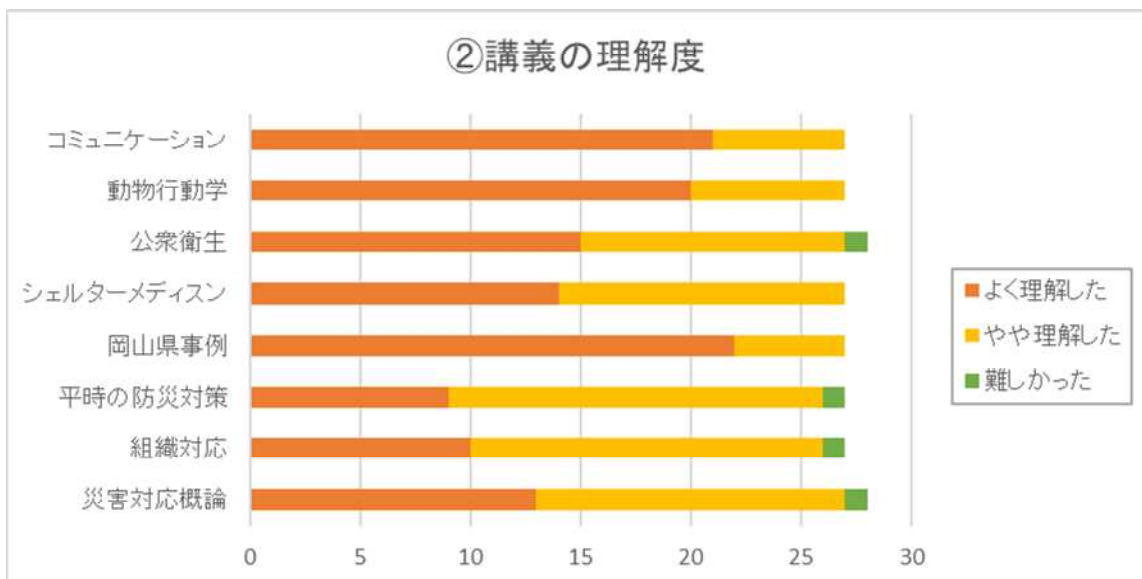
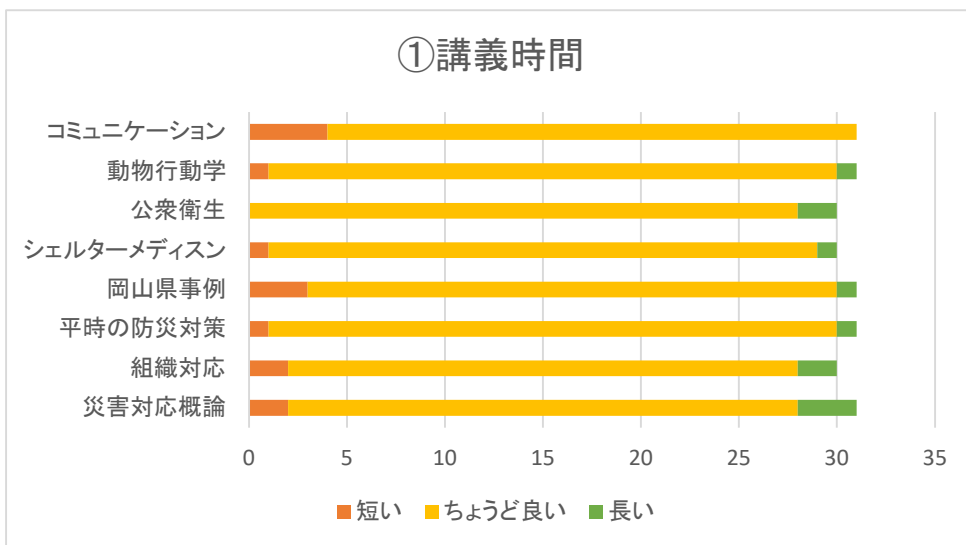
(3) 2回目は8月27日、28日大阪(大阪ペピー動物看護専門学校)において開催

自治体職員(獣医師)が30名(定員30名)参加

(4) 研修会に関するアンケート調査結果

2019/08/27-28 災害派遣人材育成研修会@東京 アンケート集計結果

Q1. 各講義について、①講義時間 ②理解度 はいかがでしたか？また、③各講師へのご意見・ご質問などありましたら、ご自由にご記入ください。



### ③ . 講師へのご意見・ご質問など

#### 1. 災害対応概論(日獣大・田中)

- 大変わかりやすく勉強になりました。
- 内容のボリュームを考えると、もう少し長い講義時間でも良いと思います。
- 災害に対する漠然とした不安に対し、できることすべきことが少し明確になった気がします。
- 50-60分がリミット。概論ではありますが、内容を絞ったほうがいいのでは。
- 獣医師の役割を自身知っておくことの重要性、人を優先して考えることとてもよくわかりました。
- 話すスピードが速い。

#### 2. 災害時における組織対応(環境省・田口)

- よく理解できました。
- 1枚目のスライドの情報量が多くてわかりにくかった。
- 災害時は臨機応変に自分で対応するという意識が重要だということがわかりました。

#### 3. 平時の防災対策(環境省・田口)

- 同じく理解できました。ありがとうございます。
- 救援本部を立ち上げて、義援金の募集を早く行わなければならないとわかった。

#### 4. 災害対応 岡山県での事例(岡山県職員・橋本)

- 災害の現実を見ました。貴重なお話をありがとうございました。
- 実際の現場での話を聞くことができ、大変良かったです。
- 実際のご経験に基づいた貴重なお話をありがとうございました。
- 実際に災害対応された話は参考になった。もっと細かく聞きたかった。
- 具体的な話があり、とてもわかりやすかった。
- 実体験を踏まえた講義で役立つ内容でした。
- 同行避難してきた人、動物は想定内だったのか、想定より多かったか確認したい。
- 現場の意見、現場の混乱ぶり等よく伝わった。その後の対応など詳しく知りたい。
- 当時のご苦勞がよく伝わりました。ありがとうございました。
- 実体験の内容だったので、大変興味深く参考になりました。

#### 5. 災害時のシェルターメディスン(日獣大・田中)

- すごく参考になりました。ありがとうございます。
- 初めてシェルターメディスンの話を聞きました。個体管理と群管理の違いが少しわかった。もっと細かく聞きたいです。
- 早口。

#### 6. 災害時の公衆衛生(帝京科学大・佐伯)

- とてもわかりやすかったです。ありがとうございます。
- 感染症に対する自分の意識が低いと感じました。PPEがこれから重要になると思います。
- 愛護に偏りがちですが、公衆衛生的な視点を再確認できました。

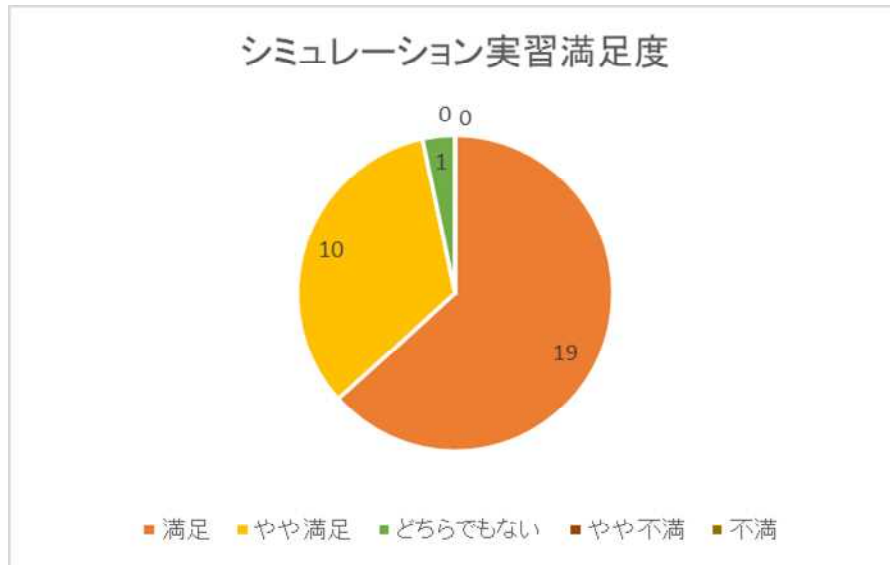
#### 7. 災害時の動物行動学(行動学専門医・入交)

- 大変勉強になりました。
- わかりやすかったです。
- 自らの業務中だけでなく、飼い主さんへのアドバイスにも役立てたいです。
- 写真、動画が多く、犬猫が活発にコミュニケーションを取ろうとしていることがよくわかった。

8. コミュニケーション(行動学専門医・入交)

- ここが一番勉強になりました。
- 理解できたつもりですが、実践するのは難しかったです。
- コミュニケーション能力はすごく大切だと感じた。
- コミュニケーションの実技を研修にに入れて欲しい。
- 日常の市民対応の際にも生かしていきたいです。
- 初めて聞きました。公務員にとっても大事なスキルだと感じました。とても興味深かったです。
- 日常業務にも役立つ内容で為になった。

Q2. シミュレーション実習はどの程度ご満足いただきましたか？

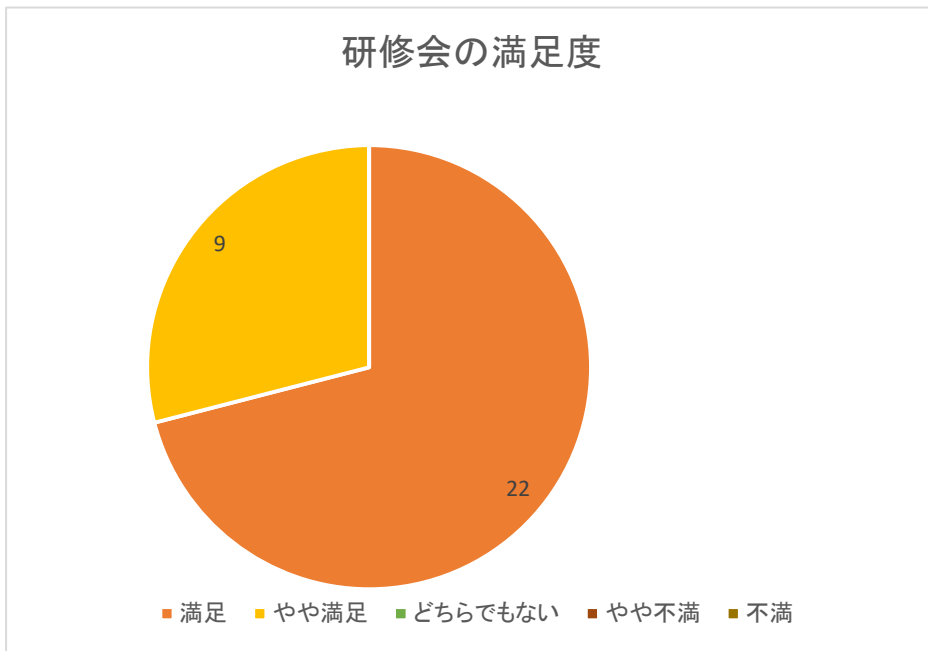


Q3. シミュレーション実習に関して、なにかご意見・ご質問などございましたら、ご自由にご記入ください

- 最初に役割分担をしっかりと確認してからやるべきだったと反省しました。
- こういう実習は本当にいい勉強になります。
- とても対応が難しいものだとということがよくわかりました。
- 様々なシチュエーションが想定されており、とてもためになる実習でした。機会があればほかの部署での運営も携わってみたいと思います。
- 机上では理解していても実際に体験してみると想定以上に多くのことが起こり、それを確かめる方法も持ち合わせていないことに気づきました。
- 予想しない状態、思い通りにならない状況、体感できました。アクターの皆様の演技がすごかったです。リーダーシップを取るのが苦手な性格の場合、どのように貢献できるのか考えてみたいと思います。なにが正解だったのか、対応については職場で考えてみたいと思います。
- シミュレーションはトラブルが多く、全てに対応するのは難しいと感じました。
- とても興味深くてやりがいがあったので、もう少し長時間あってもいいのかなと思いました。
- 想定外への出来事への対応が難しいと思った。
- 前半の計画を立てる時間がもう少しあっても良かったと感じました。
- 次々に来る情報に対応しきれず、実際の現場での混乱が予想され、日頃の準備の大切さを実感することができました。
- とても有意義な実習でした。ほかの役割も担当してみたいです。
- 混乱することは大前提ですが、何度やっても慌てます。
- 各自治体でもぜひ開催してほしい。
- 時間の経過がよくわからなかった。

- ・ 自分が何者で何ができるのかそれをしっかり説明すべきだった。
- ・ 実際に災害が起こった時の混乱する状況を少しでも体感できたのは、大きな経験となりました。
- ・ とても楽しく?実習できました。バタバタするんだということはとてもよくわかりました。自分で対応できること、できないことを判断できるようになることが重要だと思いました。
- ・ 時間の経過により状況が変化していく中での対応、他部門との連携等、考えさせられる有意義な機会だった。
- ・ 初めてこういった災害時のシミュレーションを体験し、大変有意義な時間となりました。
- ・ バタバタした体験でしたが、非常に勉強になりました。

Q4. 今回の研修会は全体を通してどの程度ご満足いただけましたか?



Q5. 今後取り扱ってほしい講義・実習内容がありましたらご記入ください

- ・ シミュレーションはまた経験したいと思います。
- ・ 実習は季節や場所を変えて、地域の特徴を生かすと面白いと思います。
- ・ 施設の保管方法を動物種ごとに知りたかったです。
- ・ コミュニケーションの実習。
- ・ 応用編にも参加して、災害への備えを充実させたいです。
- ・ 後半の研修もぜひ受けたいです。
- ・ 猫問題、多頭飼育問題への対応。
- ・ シミュレーション系の実習を開催してほしい。

Q6. 研修会に関してご意見などございましたら、ご自由にご記入ください

- ・ 災害時の物資の流れ等、実際の話伺える機会があるとありがたいです。
- ・ 全体的にとっても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ とても参考になりました。応用編も可能であれば是非参加したいです。
- ・ 非常に有意義なものだと思いました。担当者が別々の自治体から集まっているにもかかわらず、これだけの情報、一体感を共有できる実習は珍しく感じました。
- ・ 大変貴重な研修ありがとうございました。
- ・ 基本的な内容でも非常時ではできないことを再確認できました。良い経験になりました。
- ・ 様々な視点から災害時に知っておくべきことややるべきことについて学ぶことができました。特にシミュレーション実習は現場の混乱状況を体験することができました。ありがとうございます

- ました。
- 都道府県だけではなく、市町村を対象とした実習があると良い。
  - シミュレーションはとても良かった。自分の想像していないことが多く発生し、対応が大変だったが、とても勉強になった。
  - 災害への備えを進める上で大変役立ちそうです。ありがとうございました。
  - 名簿をいただけるとコミュニケーションを事前に取りやすいと思います。
  - 東京・大阪以外でも実施していただけるとありがたいです。行政担当者以外の獣医師会などとも合同で講義があれば、さらにお互いの立場など分かり合える部分もでてくると思います。
  - 獣医師がすべきこと、行政がすべきことを明確にし、より細かいマニュアルを作って行かなければならないと感じた。
  - 特に動物行動学が勉強になりました。災害時に獣医としてなにができるかもっと学ぶ必要があると感じた。
  - シミュレーション実習は大変参考になりました。災害時のマニュアルの作成と合わせて、組織内での実施も検討したいです。
  - とても有意義な研修会でした。先生方ありがとうございました。
  - 東京・大阪以外でも開催していただきたいです(旅費の都合、日程の都合で参加できない自治体職員にも積極的に受講してもらいたいため)。

## 4-2

### 基礎編プログラム内容

#### 1日目

- 9:00～9:10 開会の挨拶
- 9:10～10:00 災害時における組織的対応（環境省田口）
- 10:10～11:40 平時の防災対策（環境省田口）
- 11:40～12:40 昼食
- 12:40～14:20 自治体が行う支援活動（新潟県遠山）
- 14:30～16:30 公衆衛生（帝京科学大学佐伯）

#### 2日目

- 9:00～10:00 災害対応概論(ニーズ調査/リスクコミュニケーション)(田中)
- 10:10～11:00 飼い主のケア(行動学専門医入交)
- 11:10～12:00 災害時の動物行動学(行動学専門医入交)
- 12:10～12:40 災害時のシェルターメディスン(田中)
- 12:40～13:40 昼食
- 13:40～17:00 シミュレーション実習

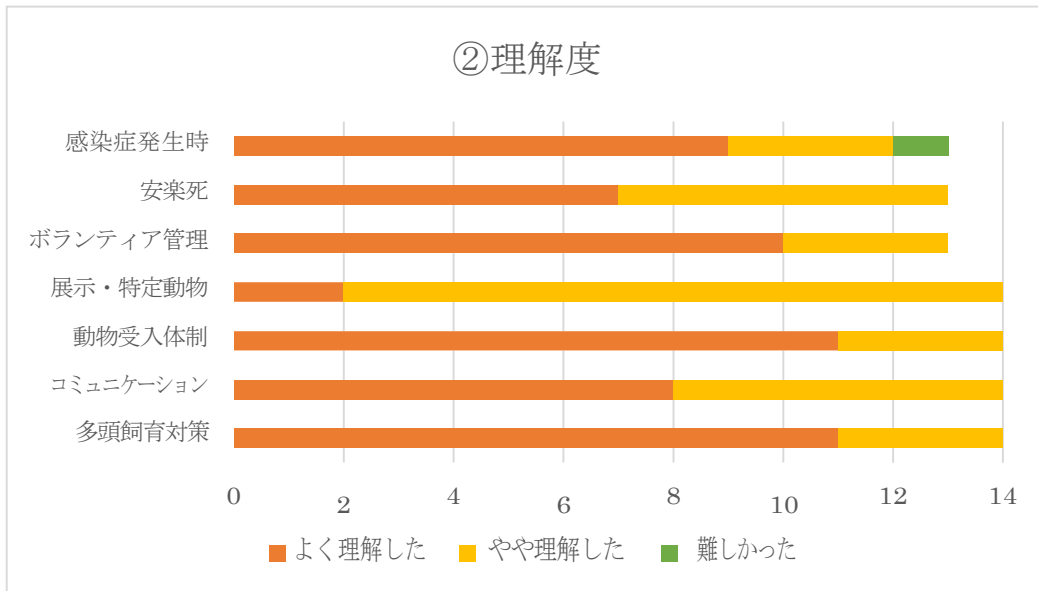
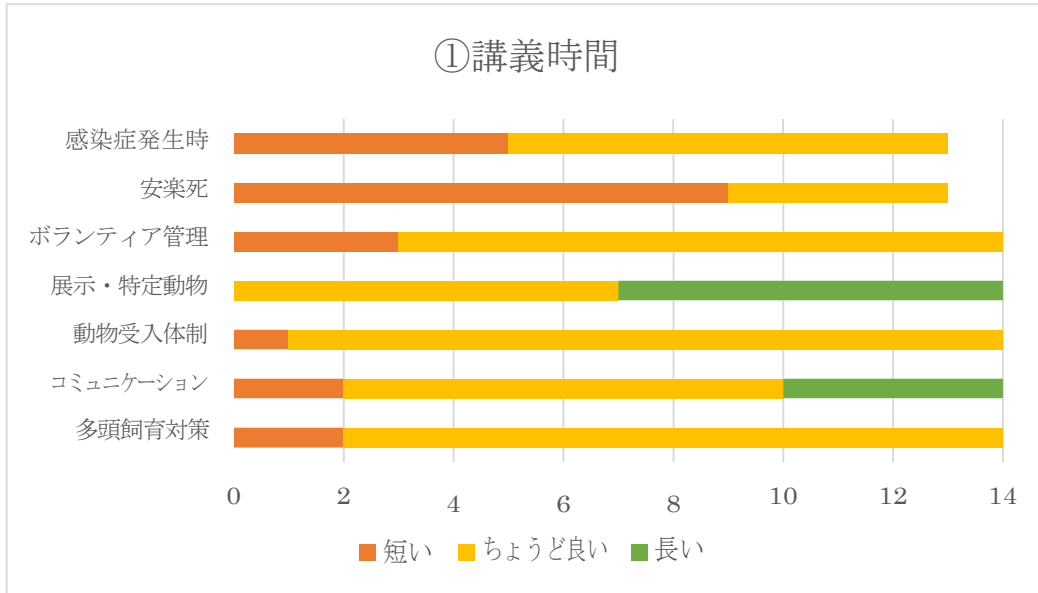
## 4-3

基礎編の受講者を対象に、グループディスカッションやシミュレーションを中心にした実践編を開催した。

- (1)1回目は12月25日、26日に東京で開催。12名(定員30名)参加。
- (2)研修会アンケート結果

2019/12/25-26 災害派遣人材育成研修会 実践編 アンケート集計結果

Q1. 各講義について、①講義時間 ②理解度 はいかがでしたか？また、③各講師へのご意見・ご質問などありましたら、ご自由にご記入ください。



### ③ . 講師へのご意見・ご質問など

#### 1. 多頭飼育・ブリーダー・ホーダー対策(新潟県庁 遠山先生)

- 普段からの適正飼養に関する啓発が重要だと思った。
- 実際に災害対策を経験されている遠山先生からのお話はとても参考になりました。
- 被災動物の取り扱いについて、実際に体験した現場の方からの助言をいただけて、良いシミュレーションになった。
- 実際の事例等の紹介もあり、わかりやすかった。
- 平時からの問題が災害時にはより浮き彫りになるとのことで、日頃から対策を進めていかなければ…と思いました。
- シミュレーションとしてはありえる且つ厳しい状況でどういう選択をしていくのか、自分のこととして考えることができた。平常時の準備対策としてどこから取り掛かるべきなのか、他部局をどうすれば巻き込んで議論できるのか、ヒントをもらえたら尚良かったです。
- テンポよく進んだので、少し考える時間が足りない場面もありました。
- 平時にも直面する問題なので、色々な意見や対応が聞けて良かった。ポイントを整理し、一つのシナリオも知ることができた。平時からの対応の重要性を再認識した。
- 実際の対応状況を具体的に聞けたのでとても参考になった。
- 限られた時間で正解を考える難しさを感じた。実際の対応を想定した問題だったので、とてもためになった。

#### 2. コミュニケーション実習(動物行動学専門医 入交先生)

- 外部から見ているといろいろ気づかされることが多く、大変勉強になった。表情、仕草、相槌など相手に寄り添っていることを感じてもらいつつ、主導権はしっかりと持つことが大切だと思った。
- バーバル、ノンバーバルコミュニケーションについて、頭ではスキルを理解しつつも、実践するとなるとなかなか簡単にはできないものだなと思いました。
- ほかの方の対応を見るいい機会になり、大変参考になった。ひとつご意見させていただくのであれば、重要な役どころで学生さんを起用するのは慎重になったほうが良いかと思います。こちらは自治体職員として「仕事」として出席していますので、「お手伝い」の感じが出てしまうのは、こちらとしても不完全燃焼してしまいますし、失礼です。様々な市民と接する中で培った行政職員としての矜持も持って研修会に臨んでいます。Vet OSCEの延長のような形で出席されても困ります。もし、学生さんを起用するなら、様々な場数を踏ませ、参加者名簿に名前を掲載するなどしていただきたいです(責任を持たせる意味で)。今回参加された学生さんを責める意図はありませんが、お互いリスペクトしあえるような研修にしてください。是非お考え下さい。
- 飼い続けるのか迷っている飼い主に対し、手放す気になっているような話の組み立て方など、具体的なところを教えて欲しいです。
- 普段、自分の会話の流れを客観的に考える機会というのがないので、自分の対応を振り返るいい機会となった。
- 多くあるテクニックについて、もう少し詳しく、体系的に学びたい(時間的に難しいのはわかりますが…)。演習後のフィードバックを詳細にやってほしい。
- 背景や設定がうまく飲み込めないうちにスタートしたので、一番手の班はどのようにすればいいのかわからないまま対応してしまいました。第三者として客観的に見ると、いろいろと気づくので勉強になった。

- 普段何気なくしている相談や面談を振り返るいい機会となった。コミュニケーションは95%が言葉以外で成り立っており、ノンバーバルコミュニケーションが重要だと知った。明日からすぐ取り入れられることも多く役に立った。スキルを学ぶ大事さも知った。
- 実習があり良かった。ほかの人の対応を見ることは、良い機会になりました。
- 普段無意識に閉鎖的な質問を自分がしていたことに気づかされた。とても勉強になった。
- もっと詳しくやってほしい。

### 3. 災害時の動物受入体制(環境省 田口先生)

- 近隣自治体との広域連携体制や義援金の窓口についても検討しておく必要があると思いました。
- 災害時体制のおさらいとなってちょうど良かった。
- 過去の災害時の事例や、現在の動向などが一番参考になります。もし起こったらという想定がなかなか難しいので、事例を教えていただけて良かったです。
- パワーポイントのフォントが小さく読みづらいので、ページ数を増やして見やすくして欲しかったです。
- 市町村と都道府県の役割の違いや、危機管理部局と動物愛護部局との連携や役割分担の考え方や事例について教えていただけると有難いです。
- 災害の研修は初めてだったので、災害時に必要なこと、平時から準備していくことが具体的に分かって良かった。契約書、誓約書、依頼書など様式例が資料としてついていたらさらに有難い。
- 被災動物の取扱について事前に設定を決めておくことの重要性を知れた。

### 4. 動物園動物・特定動物の災害対策(群馬サファリパーク 川上先生)

- 最後に少しお話いただいた災害時の特定動物への対応について詳しくお聞きしたかったです。
- 動物園、水族館関係の事業所については JAZA関係で、動物取扱業のところではそれぞれの責任で、きちんと対処していると想像できるので、当該研修で取り上げるのであれば、個人への対応について教えていただきたい。
- 仕事に取り入れたり、参考にするのは少し難しいと感じました。
- 多くの事例を示していただけたが、対策についてが少なかった。対策をもう少し聞きたい。
- エキゾチックアニマルの臨床についての知識よりも、災害時の危機管理に重点をおいた話が聞きたかったです。
- 特定動物を飼養する事業者に対して、平時からしておくべきことは何か、自治体としてどのような指導をすればよいかを示していただけると嬉しいです。
- 実際に野生動物や動物園に関わったことはなかったので、概要がわかって良かった。
- どうしても扱う動物が犬や猫が多いため、そこに着目した話もあれば良かった。
- 麻酔方法などについて今まであまり知らなかったので勉強になった。

### 5. ボランティア管理(日獣大 田中先生)

- ボランティアとの連携が構築されていたら、職員側としては非常に助かる場所ですが、まずは職員側のトレーニング(特に災害対応)が必要だなと思いました。
- ボランティアとの連携をこれから考えていく上で、非常に参考になった。



- ボランティアを集め、仕事をしてもらうことはなかなか難しく、事前の準備が大事ということが分かりました。集まってもらっても、仕事がなく、モチベーションを下げってしまうことも今までであったので気をつけます。ボランティアのトレーニング資料のひな型を作っていただけると有難いです。
- ボランティアを育てるためにスタッフから育てなければならぬと感じた。職員(スタッフ)の育成プログラムがあるといい。
- 時間の都合もあってだいぶ駆け足でやった講義だったので、ついていくのがやっとでした。ボランティアさんの性格、役割別での対応など詳しく聞きたかったです。
- 平時からボランティアを育成しておくことは災害時に手伝っていただく上で重要だと感じました。人員が少ない中でボランティアを活用できる体制を整えたいと思いました。
- ボランティアについては今後取り組んでいきたい課題もあったので、とても参考になった。災害時だけではなく、平時からの取り組みや、ポイントもわかり良かった。マニュアルの例が別紙であるととても有難い。
- ボランティアあつての動物管理業務でもあるため、ボランティアとの関わりについて学べて非常に満足しています。
- ボランティア養成講座を考えているので、参考になります。
- ボランティアだけではなく、それをまとめるスタッフもしっかり研修を受ける必要があると感じた。
- もっと詳しく(育成プログラム)。

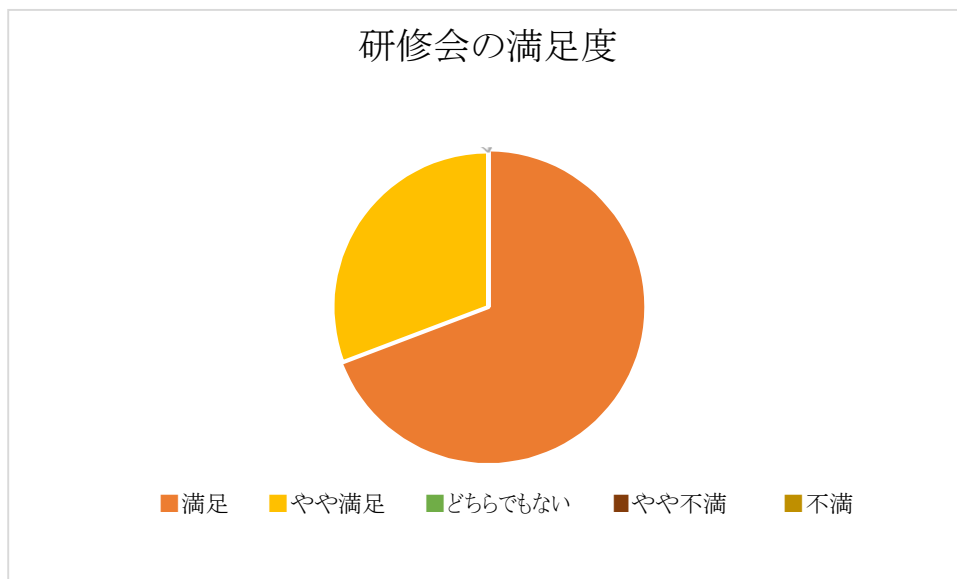
#### 6. 安楽死シミュレーション(日獣大 田中先生)

- 安楽死の判断は難しいが獣医師の判断として、必要な安楽死を実施していくべきだと思った。
- とても大事なテーマで、シミュレーションを通していろいろ考えることができました。もう少しじっくり取り組めたらよかったですと思います。
- 具体的事例で取り上げ、引取りの説得～収容～判定～処分までのプロセスの中でシミュレーションがあるととても良かったと考えます。
- 決断しなければいけない場面で自信を持って行えるように、考えていきたいと思います。
- 職場のスタッフと管理職とでは、考え方に相違があります。個体の状況に合わせて、適切に処分できる体制、社会の風潮になってほしい。
- 最後のディスカッションも行ってみたいかった。
- 安楽死の処置は批判されやすく、自治体内でも腰の引けた対応をすることが多い。先生のおっしゃった「朝来たら死んでいた、は、ネグレクトと同じ」という言葉に全面的に同意する。獣医師として、毅然として、責任を持って安楽死という決断ができるようにしたい。
- 安楽死は獣医療であるということを認識して、責任をもって処置、説明ができるようにしたいと思いました。
- 安楽死に関し、明確にわかっていなかったのが、良かった。迷うこと、外部からの圧力もあるので、今回はっきり知れて良かった。
- もっと考えたかったです。
- 獣医師として判断を下した理由を論理的に説明する必要を感じた。
- もっと詳しく。

7. 感染症発生時シミュレーション(帝京科学大学 佐伯先生)

- あまり考えたことのないシミュレーションでしたが、大事なことだなと思いました。もう少しゆっくりお話を聞けたらよかったですと思います。
- 難しい設定ではあったが、班員とのコミュニケーションを取りながら対策を話し合うことができ、有意義であった。狂犬病についてもブラッシュアップできた。
- 知識と想像力を鍛えていきたいと思います。
- 狂犬病という獣医師にとっては最も重要な疾患についても、かなり知識が不足していることを痛感した。
- 疫学調査の基本的な内容も併せて講義していただけると理解しやすいのではないかと思います。
- 狂犬病に関する知識が、ほとんどなかったため、勉強になった。また、重大な感染症に対する行政の対応や考えないといけないことが、シミュレーションを通して少し知ることができて良かった。
- もう少し色々な感染症を利用してシミュレーションを行いたかった。
- ありえなくもない想定だったので、本当に発生したら怖いな…と思いながら考えられました。
- 状況から必要な情報を選択することが難しいと思った。

Q2. 今回の研修会は全体を通してどの程度ご満足いただけましたか?



Q3. 今後取扱ってほしい講義・実習内容がありましたらご記入ください。

- 災害時における避難所の運営(実際に運営に携わった団体(動物ではなく人の分野で)から話が聞けると嬉しいです)。
- 災害本部や避難所で起こりうる事例の対応方法について、シミュレーションができればと思います。
- 危機管理部局や避難所運営者(責任者)との平時のコミュニケーションのとり方を扱って欲しい。

- ・ シェルターメディスンの実際、行動学、譲渡に向けたトレーニング方法など。
- ・ ボランティア育成プログラム(災害以外も含めて)研修、福祉機関との連携システム構築(災害、多頭飼育対策)研修。

**Q4. 研修会に関してご意見などございましたら、ご自由にご記入ください**

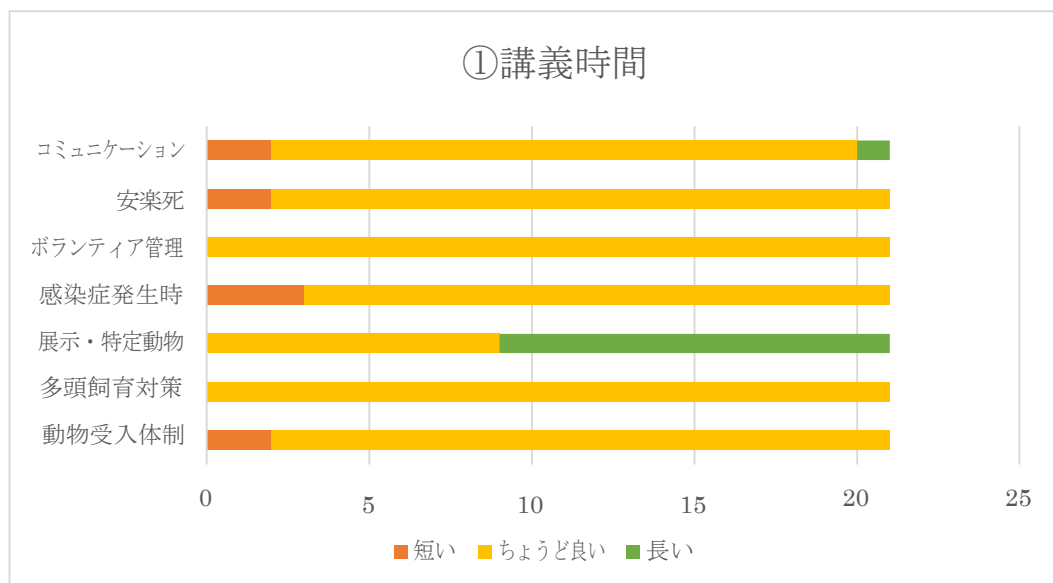
- ・ シミュレーション形式でとても楽しかった。グループ内でも様々な意見が出たので大変勉強になった。
- ・ とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 面白い取り組みなので続けていただきたいです。
- ・ 災害について取り組んでいますが、やるべきことが多く大変です。これだけは最低準備しておくこと！と教えていただいたことをコツコツやっていきます。
- ・ 実践編ということで、考える機会、話す機会が多く良かった。今後もこういった研修があると嬉しいです。
- ・ 基礎と応用の2回を受講しましたが、もう少しじっくり勉強したいと思いました。また機会があれば参加したいです。
- ・ 実践編も大阪など地方でやっていただきたい。開催時期はクリスマスは避けて欲しい。

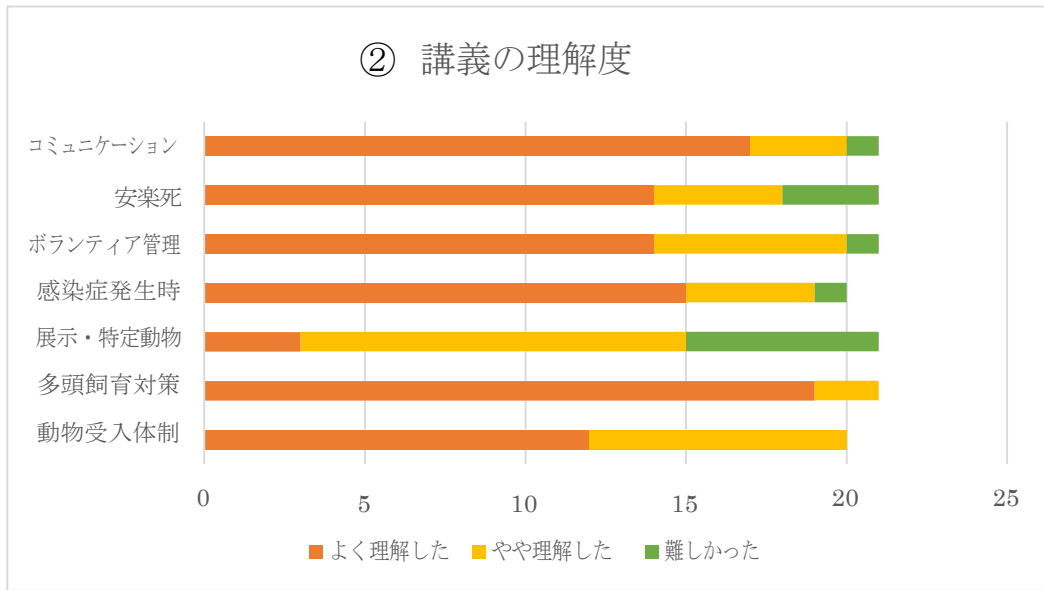
(3)2回目は2月17日、18日東京(日本獣医生命科学大学)にて実施。

(4)研修会アンケート結果

2020/02/19 災害派遣人材育成研修会 実践編 アンケート集計結果

**Q1. 各講義について、①講義時間 ②理解度 はいかがでしたか？また、③各講師へのご意見・ご質問などありましたら、ご自由にご記入ください。**





### ③. 講師へのご意見・ご質問など

#### 1. 災害時の動物受入体制(環境省 田口先生)

- 内容はある程度理解できたと思いますが、発生時にはケースバイケースの対応が多く、原則はなかなか通用しないのだろうなど運用に難しさを感じました。
- 19号での対応状況について、各自治体から報告されていた内容や、風水害時のペット同行避難で議論されていることなど、もう少しもう少し踏み込んだ内容が聞きたかったです。
- 一時預かりについて、ルールを平時に決めておかないと、大規模災害時には対応できないことがよくわかりました。
- ありがとうございます、よく理解できました。
- 一時預かり書を初めて目にした。参考になった。
- 出来るところから一つひとつ対策(準備)をしておかなければと再認識できました。
- 国の考え方、方針をもっと明確にしてほしい。

#### 2. 多頭飼育・ブリーダー・ホーダー対策(新潟県庁 遠山先生)

- 平時の問題がより難しくなっているので、とても参考になりました。
- 実際に災害対策本部を3回も立ち上げた経験のある先生のお話は、大変説得力があり、学びが大きかったです。獣医師会との関係も伝わってきて、とても勉強になりました。
- ありがとうございます。実体験を織り交ぜてとてもわかりやすかったです。
- いざ災害時のことを考えてみると、なかなかやるべきことが出てこなくなってしまうものだと思います。
- 実践的でとてもよかったです。いつそのような事態が起きるかわからないので、考えるいい機会になった。
- 経験に基づくお話が伺えて大変良かったです。
- 多頭飼育・ホーダー・ブリーダーは全く違うカテゴリー。自治体として対策を取っておくべきはホーダーかと…

3. 展示動物・特定動物の災害対策(群馬サファリパーク 川上先生)

- 実践への活用方法を考えることが難しいと思いました。
- JAZAでの専門的な取り組みがあることがよくわかりました。もし、平時や災害時に特定動物の管理でJAZAとして行政に求めることがあれば知りたかったです。
- なかなかお聞きできない話で参考になりました。
- 自分には野生動物を扱うノウハウはないので、あまり使えない技術に感じた。
- テーマごとに途中で区切った方が聞きやすいと思った。
- 普段はなかなか接することができないお話を伺って興味深かったです。
- 聞き取りづらかった。
- 話が動物園に特化してしまい、業務への関連性を見出しにくかった。特定動物についての話が聞きたかった。

4. 感染症発生時シミュレーション(帝京科学大学 佐伯先生)

- 対応を考える中で課題を把握でき、考え方について大変勉強になりました。
- シミュレーション形式で面白かったです。狂犬病?!って状況を普段想定することが難しかったため、頭の整理になりました。
- (人の)感染症の業務もしたりするので、とても参考になりました。
- 先生のテンポよい話し方がとてもわかりやすかったです。
- 実際に起きた時にどうしよう…と思った。
- 災害にいざ直面すると対応に苦戦する事案が次々と起こるのだろうと思うと、今できる準備くらいはしておかないと…と感じました。

5. ボランティア管理(日獣大 田中先生)

- とても楽しく体験させていただきました。
- 動物愛護推進員との関わりにも参考にさせていただきそうで、大変勉強になりました。
- ボランティアを受け入れる事前の準備、心構えが勉強になりました。
- 日常でもよくある事例なので、大変参考になりました。
- ボランティア募集を全くしていないので、募集方法など大変参考になりました。
- まだ全くその段階ではないので、机上論に感じてしまった。
- 災害時にはボランティアに頼る部分も増えると思うので、今から(平時から)考えておくべき事項だと考えさせられました。
- 具体的なプログラムがほしい。

6. 安楽死シミュレーション(日獣大 田中先生)

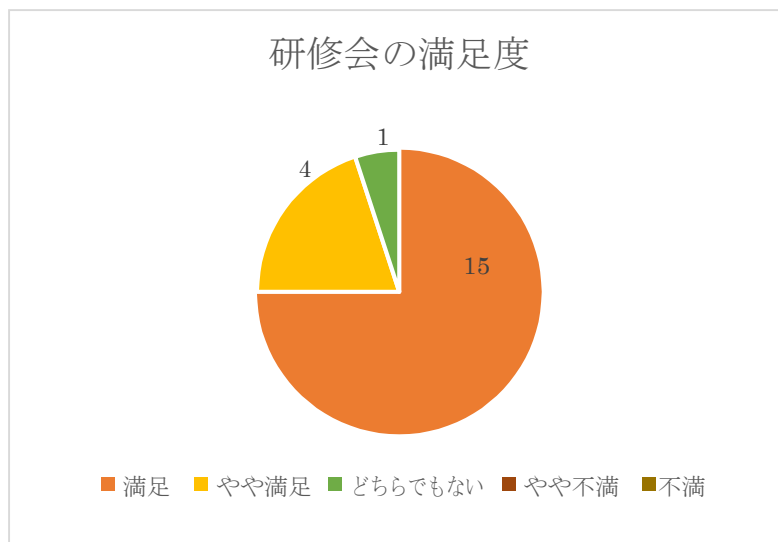
- 平時でも災害時でも同じですが、やはり決断の時は難しいなと思います。
- 安楽死のことをそもそもよくわかっておらず(申し訳ありませんでした)、大変勉強になりました。
- 獣医師の中でも意見が分かれることがよくある部分で、今後は獣医師として自信を持って判断していきたいです。
- 身近な問題として大変参考になりました。
- 難しい課題なので、しっかり考えようと思いました。

- 情報量が豊富な先生のお話は大変よかったです。
- 安楽死について理解はできたが、やはり難しい問題です。
- 明確な基準が設けられるものではないとのことであったが、考え方の拠り所を頂けた講義でした。
- 安楽死について考え直すいい機会になった。
- 動物福祉に絡めた話をして欲しかった。

7. コミュニケーション実習(動物行動学専門医 入交先生)

- 正解がないぶんとても難しかったです、とても参考になりました。
- なかなかできない経験で、聞いているだけでしたが、学びが大きかったです。先生の知見と演者の皆さんの日頃の経験を、相乗効果で多角的に学べたと思います。あっという間の時間でした。ありがとうございました。
- 実際にやってみると、客観的に見ることで、気づく点が多くありました。
- 一番苦手な実習でした。本当に難しい。でもよく理解できました。
- コミュニケーションは出たとこ勝負でやっていたので、いろいろなテクニックを実際に見れてよかったです。
- ロールプレイングのようなものを行い、コミュニケーションには正解はないということに気づかされました。今後の業務に役立てたいと思います。
- 普段気づけないことに気づけてよかったです。
- 具体的な話がなくて良かった。
- とても勉強になりましたが、何が正解かはわからないままですが…ただそれだけ対応の仕方はたくさんあって、相手もいろんな人がいるということなのですね。参考になるスキルを教えてくださいましたので使っていきたいです。
- とても参考になりました。
- 実習がとても勉強になった。良かった。

Q2. 今回の研修会は全体を通してどの程度ご満足いただけましたか?



**Q3. 今後取扱ってほしい講義・実習内容がありましたらご記入ください。**

- コミュニケーション実習では、もっとクレマーのような難しい体験もあると思います。
- 一番困っている同行避難の受入について考えてみたかったです。
- シミュレーションを実在する自治体の実際の問題にする。
- 基礎編でもあったハードクレマーの対応ももう少しやってみたい。
- ボランティア管理のもっと基礎的なこと。ボランティアの集め方など。
- クレマー対応や、精神疾患などの人に対する対応の仕方について。

**Q4. 研修会に関してご意見などございましたら、ご自由にご記入ください**

- テンポよく、内容も盛りだくさんで、基礎編実践編ともに大変楽しくお勉強させていただきました。実践で活かせるように心がけたいと思います。
- できれば獣医師会の先生と一緒に受講したいと思いました。本部立ち上げ経験、一時預かりの実際など獣医師会同士で情報共有していただき、その中でのご意見を行政として聞きたいですし、連携を深めたい。全国規模での研修だからこそ、期待したいです。
- また、自治体の規模、起こりうる災害の種類、センターの有無、ペットの傾向など自治体ごとの特徴を踏まえてカテゴリー分けして、より深い課題の共有と考察ができるようにしていただけると嬉しいです。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 基礎編、実践編と4日間大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ディスカッションの時間がもう少し長い方がいい。他の自治体の事情や問題が話せてよかったです。
- 机の配置場所がスライドが見にくい位置だったので、スライドが見やすいようにセッティングしてもらえると有難いです。
- 精神疾患がある人もしくは、話している間に精神疾患があるか疑うような相手の例を見てみたかったです。
- 大阪会場、東京会場と2箇所だけなので、地方でもやっていただけると有難いです。

#### 4-4

##### 実践編プログラム

##### 1日目

- 10:00～10:05 開会あいさつ
- 10:05～11:35 展示動物、特定動物等の災害対策(群馬サファリパーク 川上園長)
- 11:35～11:45 質疑応答
- 11:50～12:50 ボランティア管理(田中亜紀)
- 13:00～13:50 昼食
- 13:50～14:20 災害時の動物受け入れ態勢(条件、誓約書等)(環境省 田口本光)
- 14:25～17:00 コミュニケーション実習

##### 2日目

- 9:00～10:30 グループディスカッション「多頭飼育、ブリーダー、ホーダー対策」(新潟県 遠山潤)
- 10:30～10:40 質疑応答
- 10:45～12:10 グループディスカッション「安楽死(家庭動物、産業動物)」(田中亜紀)
- 12:20～13:00 昼食
- 13:00～15:00 グループディスカッション「感染症シミュレーション」(佐伯潤)

#### **【市民ボランティア育成講座—動物福祉講座】**

市民対象の災害動物ボランティア育成のため、本年度は動物福祉全般の育成講座を実施した。災害時の動物管理には、まずは動物に関する基礎知識が必要なため、10回に分けて動物救護に必要な導入研修を行った。

- 5月27日 ①動物福祉について ②動物虐待について (田中)
- 5月28日 ②シェルターメディスン ②動物行動学 (田中、入交氏)
- 7月6日、7日 展示野生動物の福祉 (Dr. Georgina Grove、通訳:田中)
- 8月20日 ①コミュニケーションスキル ②犬猫のしつけ ③One Health One Welfare (入交氏)
- 9月25日 ①災害対応 ②家庭での応急処置 (田中、佐伯氏)
- 12月7日 ①災害ボランティア入門 ②シェルターでのボランティア活動 (田中)
- 1月11日 ①野良猫問題 ②多頭飼育崩壊 (田中)
- 2月27日 動物愛護教育について (山崎氏)
- 3月24日 動物関連法規について (浅野氏)

#### **【DMAT、VMAT(獣医師会&行政)、市民ボランティアの3種合同訓練】**

11月9日、群馬県伊勢崎市民病院において、DMAT、VMAT(獣医師会および群馬県行政獣医師)、市民ボランティアによる3種の合同訓練を実施した。災害を想定した人の患者の対応をDMATが訓練し、動物を連れた患者や盲導犬などの対応をVMATが訓練し、市民ボランティアも参加した。VMAT訓練では、同時に被災動物の収容を想定した訓練を行政および獣医師会、市民ボランティアを交えて実施した。



(1)伊勢崎市民病院災害医療活動訓練 VMAT参加スケジュール

場所 伊勢崎市民病院 ロータリー・病院入り口

集合時間 11時00分:VMAT委員

12時15分:参加患者役の方々・参加隊員

訓練開始 13時30分:患者役 投入開始(一般患者役人数50~100名)

順次患者同行動物受け入れ訓練開始(病院指定患者5名)

\*内一名は盲導犬使用者の方のご参加ご協力有り

15時00分:訓練終了

15時00分から15時20分:訓練振り返り



(写真:病院前入口に待機するVMAT車両、青い制服がVMAT隊員)



(写真:病院受付に犬を連れて来た飼い主への対応、人はDMAT、動物はVMATが対応)



(写真:盲導犬を連れて来た患者対応の訓練)



(写真：行政動物愛護センター獣医師とVMAT  
隊員と共同で被災動物の治療にあたる)



(写真：被災動物管理に関するシミュレーション  
訓練も同時進行で実施)

### 【行政動物愛護センターでのデータ収集および打ち合わせ】

#### (1) 研究参画行政シェルターにおけるヒアリング調査

沖縄県動物愛護センター、新潟県動物愛護センター、青森県動物愛護センター、岡山県動物愛護センター、横須賀市動物愛護センター、熊本県動物愛護センター、沖縄県動物愛護センター、川崎市動物管理センターにおいてデータ収集の打ち合わせおよび現場でのヒアリング調査を行った。

(2) 行政管理センターでのヒアリング調査により、地域の動物問題の実態把握。動物が行政管理センターに来てしまう原因(飼い主による引き取り、放浪、多頭飼育崩壊、虐待など)、シェルター滞在中に発生する問題(感染症、問題行動など)、地域住民からの動物に関わる苦情などのデータ収集項目を検証する⇒**新型コロナウイルス感染症により、2020年2月以降の現地視察の全面的中止によりデータ収集が遅延。**

#### (3) 収集するデータ項目

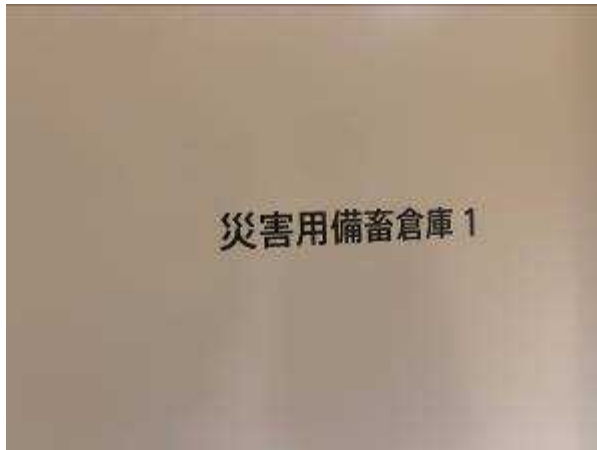
- ⇒犬や猫の收容理由(保護、飼い主引き取り(理由別)、多頭飼育、虐待など)
- ⇒收容中の健康データ(ワクチン接種の有無/接種日、疾患の有無、発症日、治療の有無/投薬の種類、治癒日など)
- ⇒犬や猫の結末(安楽死、譲渡、一時預かりなど)

#### (4) データ入力方法、収集方法、管理方法や、データ収集時の問題解決方法の提案

- ⇒データは、Excelシートに現地行政担当者が入力⇒**自治体の状況により、紙媒体での送付(新潟県は紙媒体カルテを郵送)**
- ⇒問題発生時は、随時実装担当者(田中亜紀)が対応

#### (5) 自治体における災害対策の有無

- ⇒動物愛護センターにおける災害対策、備蓄の有無等の現地調査



(写真：川崎市動物愛護センターの備蓄倉庫)



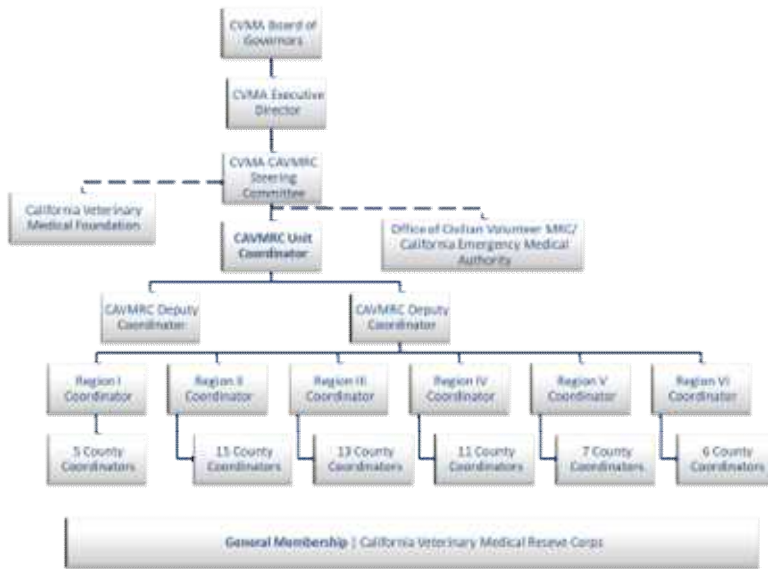
(写真：川崎市動物愛護センターの備蓄倉庫)

### 【米国現地調査】

2019年6月および10月に米国の災害対応研修会の参加および現地調査を実施した。特に、カリフォルニア州の災害対応の中核であるCalifornia Veterinary Medical Reserve Corps (CAVMRC)の活動や研修会、馬などの大動物の防災対策等に対する現地調査を行った。カリフォルニア州は、山火事、洪水、地震など自然災害が多い地域であるため、災害対応や防災対策も発展しており、大学、行政、民間の連携が促進されている。また、中央政府に関わる災害対応としては、米軍の獣医局が動物に関わる災害対応を担っている。

#### (1) California Veterinary Medical Reserve Corps (CAVMRC)

カリフォルニア州における災害時の動物対応は、CAVMRCが中心的な役割を果たす。CAVMRCは、公的な災害対応医療従事者部隊であり、米国健康福祉省の管理下にある。獣医療チームとしては米国最大規模で、約2500名が登録されている。CAVMRCは完全なボランティアであり、1人当たりの1回の派遣期間は24時間以内である。



(CAVMRCの組織図:カリフォルニア州のcounty(郡)単位にコーディネーターを設置し、郡を統括するRegion(地区)コーディネーターを設置する。)

## (2) CAVMRCの任務

- ・緊急事態時における公衆衛生、動物の健康および福祉の管理を担うための獣医療専門チーム
- ・被災動物の保護管理およびシェルター運営
- ・災害時における獣医療の提供
- ・生物兵器やズーノーシス管理
- ・疫学調査
- ・医療物資管理
- ・動物の除染

## (3) CAVMRCへの登録条件

- ・カリフォルニア州の獣医師免許
- ・カリフォルニア州の動物看護師免許
- ・獣医学部生
- ・登録時に、専門分野、訓練記録、研修会参加記録、特殊技能等を入力する。

## (4) 大学との連携

- ・カリフォルニア大学デービス校獣医学部には、教員と学生から構成されるVeterinary Emergency Response Team (VERT)という緊急時に派遣される獣医療チームがある。VERTはMRCとしても登録されており、CAMRCとVERT MRCは相互に技術提供や研修会開催などを協働している。
- ・山火事対応時には、より高度な医療が必要な重症患者の多くは大学に輸送され、初動はCAMRC、高度医療のバックアップは大学が担う形の連携を取った。

## (5) CAVMRCの派遣体制

CAVMRCは、州政府からの要請により派遣される。任務や状況により、3名から5名を1チームと

して編成する。CAVMRCのコーディネーターが2500名の登録名簿を管理し、要請条件や現場の状況に応じて、必要な人材を適材適所派遣する体制を構築している。

(6) 訓練、研修会

- ・ICSや災害対応の基礎知識に関しては、オンラインによる事前講習の受講義務
- ・被災動物管理、救急医療講座
- ・シェルター運営のシミュレーション実習
- ・CAVMRCへの登録のための訓練や研修会は、主要な学会等と組み合わせることにより、参加者への周知と参加を促進する。

(7) 日本との相違点

- ・カリフォルニア州は日本と面積がほぼ同じであり、郡を県単位として検証すると、CAVMRCのようなネットワーク作りを取り入れることは有用と思われる。
- ・米国では、獣医師の災害時における社会的ニーズが極めて明確であり、獣医師の役割や法的整備が発展している。
- ・行政の獣医師の役割に関して、中央レベル、地方自治体レベル、民間レベルと明確であり、国防や軍の獣医局の設置により、国家の危機管理体制における獣医師の位置づけが明確である。
- ・日本では、災害時の獣医師の役割に関する意識の向上が必要であり、獣医師の災害対応に関わる法的整備も同時に必要と考える。

【国際シンポジウム】

- (1) 2020年1月11日、日本獣医生命科学大学において、国際災害動物シンポジウムを実施した。米国より、カリフォルニア獣医師会Medical Reserve CorpsコーディネーターのDr. Grant Miller、米軍CBRN災害専門獣医官Dr. Kelley Evans、カリフォルニア大学デービス校獣医学部救急医療専門医のDr. Yu Uedaの3名の災害現場の専門家を招聘した。3名の基調講演のほか、環境省、日本獣医師会など日本の災害対応部署の獣医師を交えたパネルディスカッションを行い、様々な専門家と交え、会場からも活発な意見交換が行われた。85名の参加者があり、災害獣医学の普及の一旦を担う貴重なシンポジウムとなった。

プログラム

- 9:00-9:10 開会式
- 9:10-10:40 カリフォルニア獣医師会Medical Reserve Corpsにおける災害対応I  
Dr. Grant Miller
- 10:45-12:15 カリフォルニア獣医師会Medical Reserve Corpsにおける災害対応I  
Dr. Grant Miller
- 12:15-13:10 昼食
- 13:10-14:10 災害時における救急医療  
Dr. Yu Ueda
- 14:10-16:10 米軍におけるCBRNE災害に対する獣医学的対応  
Dr. Kelley Evans
- 16:20-18:00 パネルディスカッション「CBRNE災害と獣医師の役割—獣医師会、国防、大学の多分野連携—」

(2)2020年1月12日(14:00-18:00)には、環境省、行政獣医師、獣医師会、日本動物福祉協会を招いたクローズドの勉強会を実施し、3名の米国の災害獣医学専門家からの基調講演および参加者全員による討論を実施した。米国の災害動物管理システムの構築方法、自治体、中央政府、民間、大学との連携方法、米国のシステムの利点欠点について学び、実際に日本で災害対応を担う現場の獣医師との意見交換により、災害時の動物管理システムの向上に極めて有用な勉強会となった。

## 【台風19号に伴うペット同行避難に関する調査】

### (1)背景

阪神淡路大震災、東日本大震災および熊本地震など、我が国で発生した自然災害において、被災地や被災者のペットの問題は必ず取沙汰されてきた。ペットと一緒に避難できずに被災地に取り残された飼い主が被災する、被災した動物を助けに人がさらに被害を受ける、被災地に放置された動物の健康被害および経済的損失(倒壊畜舎による外傷、停電等による産業動物の健康被害、放置による餓死)、ズーノシス等や放浪動物による咬傷事故等の公衆衛生問題を含め、災害時の動物問題は多数報告されている。

これまでの災害経験を経て、環境省や内閣府においては、ペットの飼い主は事前に備え、災害時は一緒に避難する「ペット同行避難」が推進されてきたが、自治体や避難所運営側での体制不備により、台風19号においてはペット同行避難に関して多くの混乱が見られた。

### (2)目的

台風19号の被災自治体の避難所におけるペット対応に関する実態を把握することを目的に、各区市町村にアンケート調査を実施した。

### (3)材料と方法

- ・台風19号で被害のあった自治体(区市町村);東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、群馬県、茨城県、栃木県、長野県、福島県
- ・避難所運営に関するアンケート調査
- ・質問事項:ペット対応に関するガイドライン、ペットの受け入れ体制、準備、住民への周知方法、事例、難しいと感じたことなど
- ・データ収集には、(公益社団法人)日本動物福祉協会が協力

### (4)結果

全体としてのアンケート回収率は50~70%であった。災害時のペットに関するガイドラインのある自治体は9~43%と半数以下であり、その中でもペット同行避難に関する記載があった自治体も30~100%とばらつきが見られた。指定避難所でペット同行避難許可は37~93%で、ペットと同行避難できる避難所を設置した自治体は22~86%であった。

ペット同行避難に関する準備状況は、台風上陸当日が最も多く16~33%であり、平時から準備していたのは27%以下と低かった。住民への周知方法は防災無線やSNSが各自治体とも多かった。

ペットと同行避難できる避難所を設置しなかった、あるいは、できなかった理由としては、ニーズがなかった自治体もあったが、ニーズがあっても受け入れ先が見つからなかったことが多かった。

同行避難事例として認められたのは、埼玉県、千葉県、東京都とも200頭以上であったが、頭数を把握していない自治体も多かった。

同行避難の受け入れが難しいと考える理由としては、アレルギーの問題、他の避難者への理解（動物が苦手な人との住み分け）、動物を入れる屋内スペースの問題、鳴き声・衛生問題、同行避難は屋外などが上位を占めたが、職員不足や実績がない等を理由にした自治体は少なかった。

#### (5) 考察

環境省や内閣府において、ペット同行避難が推進されている一方で、今回の調査結果により、災害時のガイドラインやペット同行避難に関する記載を含め、災害時のペットに対する対応は自治体間でもばらつきがあることが明らかとなった。各避難所でのペットの受け入れについても、住民への周知が徹底しておらず、台風上陸当日に防災無線やSNS等で周知する割合が多かったが、3割程度であり、平時からの周知も3割以下であったため、住民への周知についても改善の余地があると思われる。台風19号においては、ペットがいるために避難所に行かず、飼い主が亡くなった事例もあったことから、人の安心および安全を守るためには、平時からのペット同行避難および避難所対策のさらなる強化が重要である。

千葉県、埼玉県、東京都では同行避難事例が200頭を超えたが、把握されていない頭数もあるため、実際に避難所に連れてこられた動物の頭数はさらに多かったことが想定される。ペットの飼い主は避難所での動物受け入れの可否に関わらず動物を連れてくる可能性が極めて高いことから、受け入れが不可能な場合の対応や動物の受け入れ先についても事前の協議が必要である。保健所、動物愛護センター、獣医師会、登録団体等との平時からの連携やルール作りが極めて重要と思われる。

今回の調査では、避難所でのペットの受け入れが困難とする理由に、アレルギーの問題が多かった。これまでの災害において、米国の避難所では動物と同居避難の場合でもアレルギーに関する問題の発生は報告されていない。米国でも、アレルギーを問題として避難所でのペット同行避難が認められなかったため、飼い主が露頭に迷う事例が後を絶たず、ペットの受け入れを拒否したため起きた飼い主への健康被害など、問題の方が多数報告された。米国の赤十字の避難所ではこれまでは動物は受け入れ不可であったが、昨今は、ペット同行避難を認め、ペットの避難所を人の避難所に隣接して作るように改善されてきた。日本では空間の問題としてペットのための屋内スペースを確保できないことがあげられるため、人の避難所に隣接してペットの避難所が設置できるような事前の工夫や対応を構築することも検討事項として可能と思われる。ペット受け入れに対して、職員が足りないあるいは実績がないということはほとんど理由として挙げられていないことから、事前のルール作りや平時からの関連部署との連携、シミュレーションによる事前の訓練、ペットの避難所として設置可能な場所等を検討しておくことにより、今後のペット同行避難に対する問題を予防することも可能と考えられる。

避難所でのペット同行避難の整備は、動物福祉の向上のみならず、最も優先すべき人命救助のためであり、人の安心および安全、地域の公衆衛生の向上のために今後も検討を重ね、各自治体において整備を進めていくべき課題と考える。また、避難所でのペット同行避難について、関連部署とのシミュレーション実習などを通じた机上訓練を実施することにより、地域の防災対応能力の向上につながると考える。

図1. 災害時のペットに関するガイドラインはあるか？

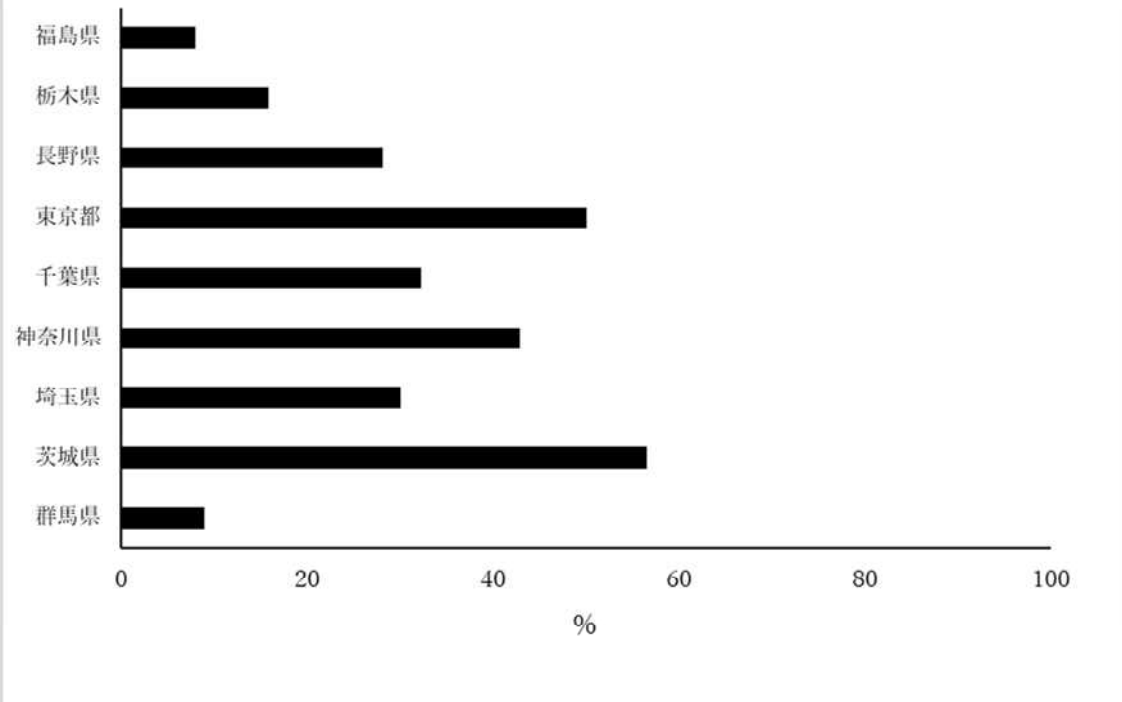


図2. ペットに関するガイドラインにペット同行避難の記載はあるか？

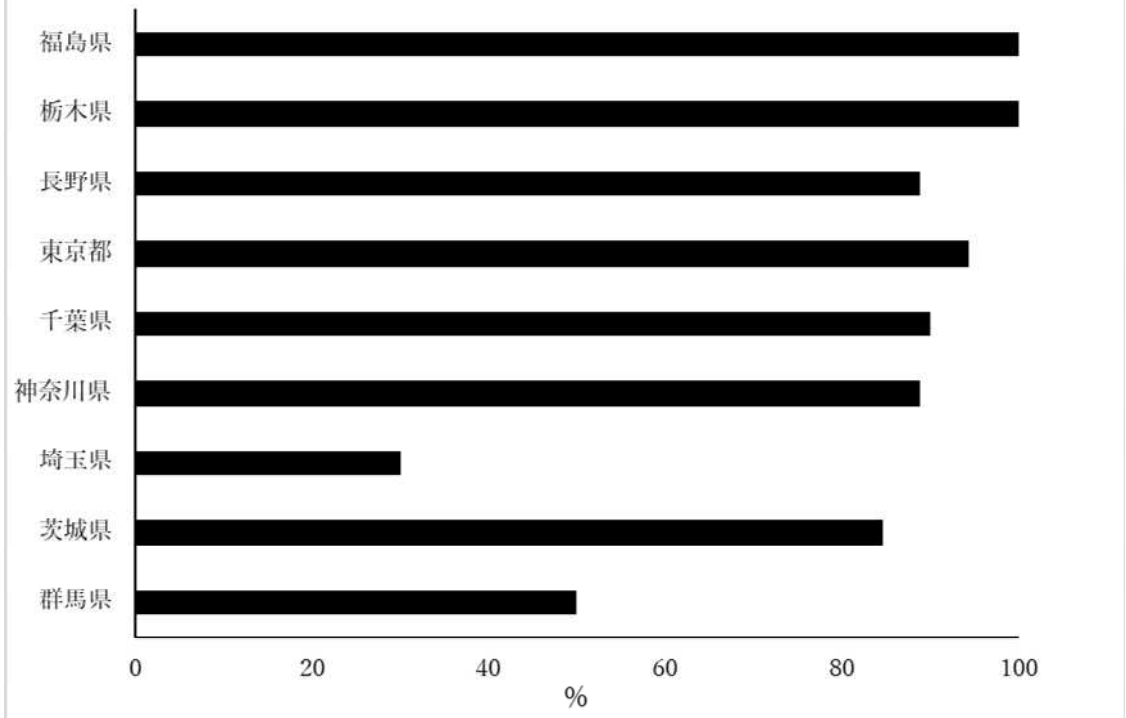




図3. 指定緊急避難所を開設したか？

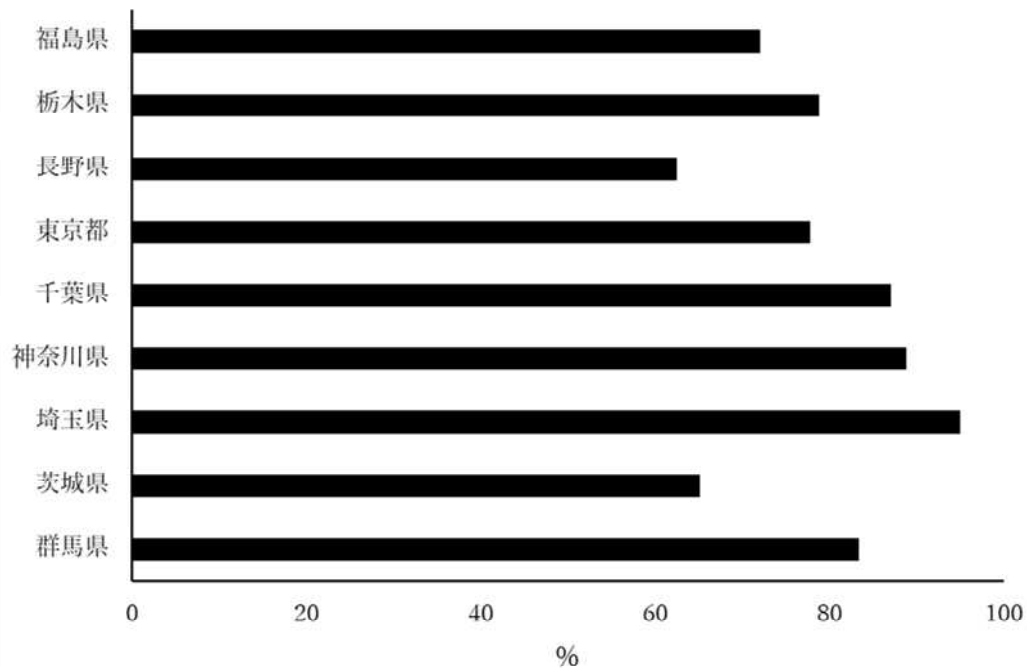


図4. ペットと同行避難できる避難所を設置したか？

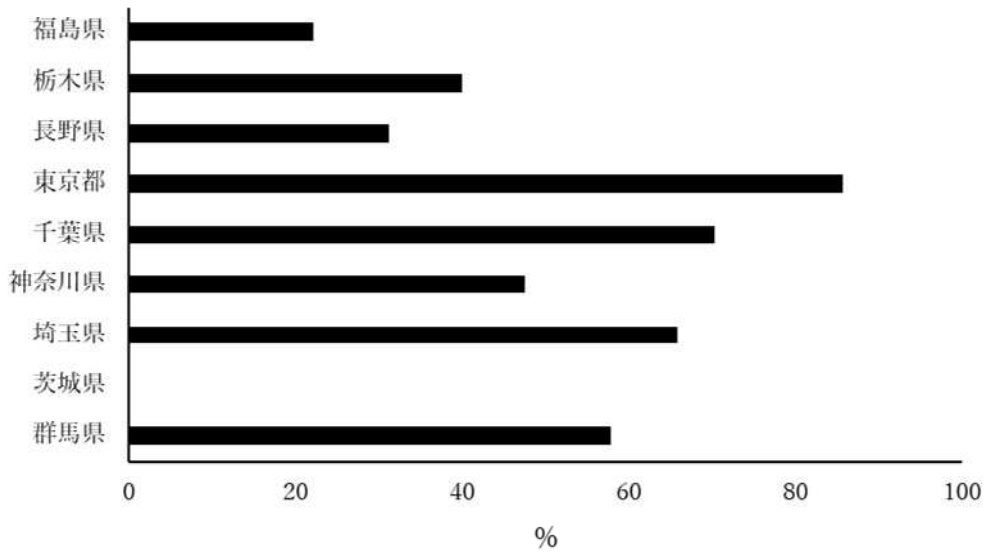


図5. いつ準備をしたか？

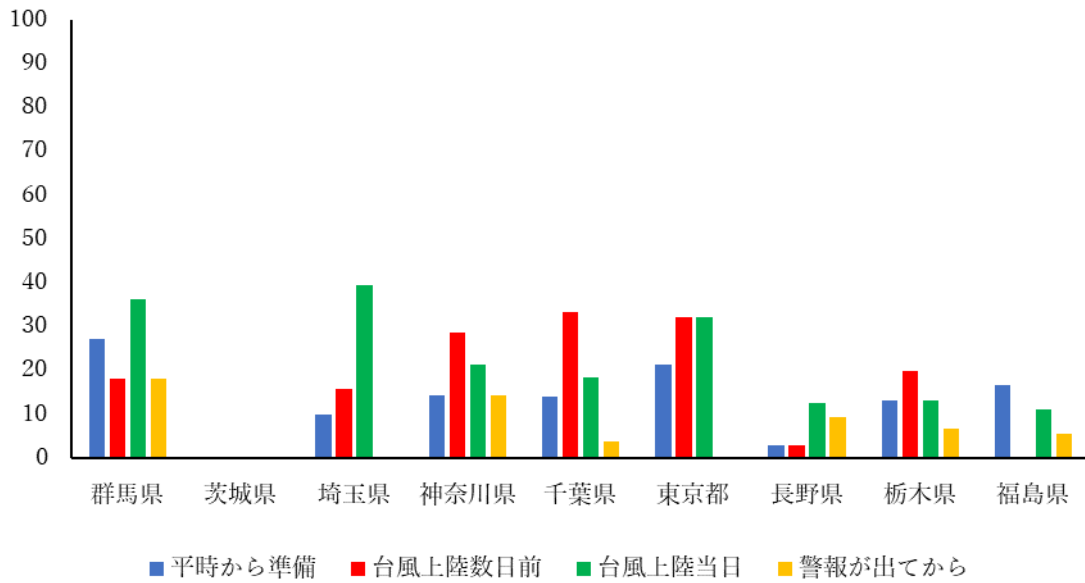
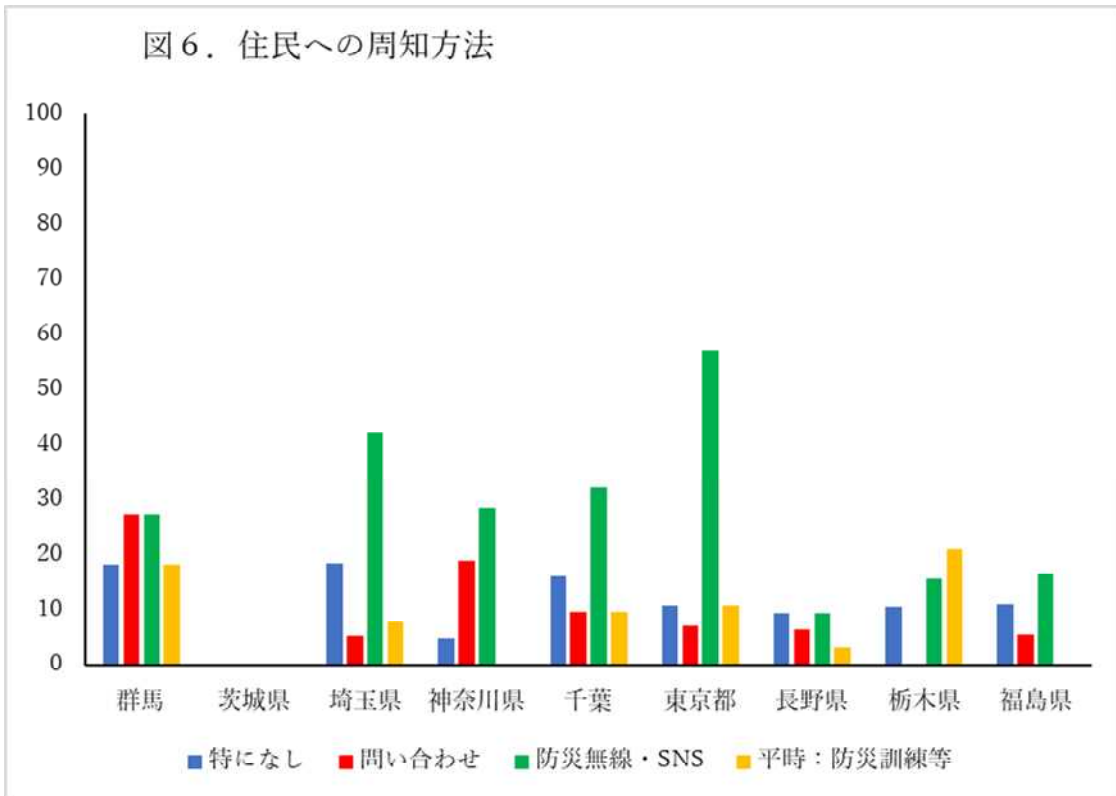
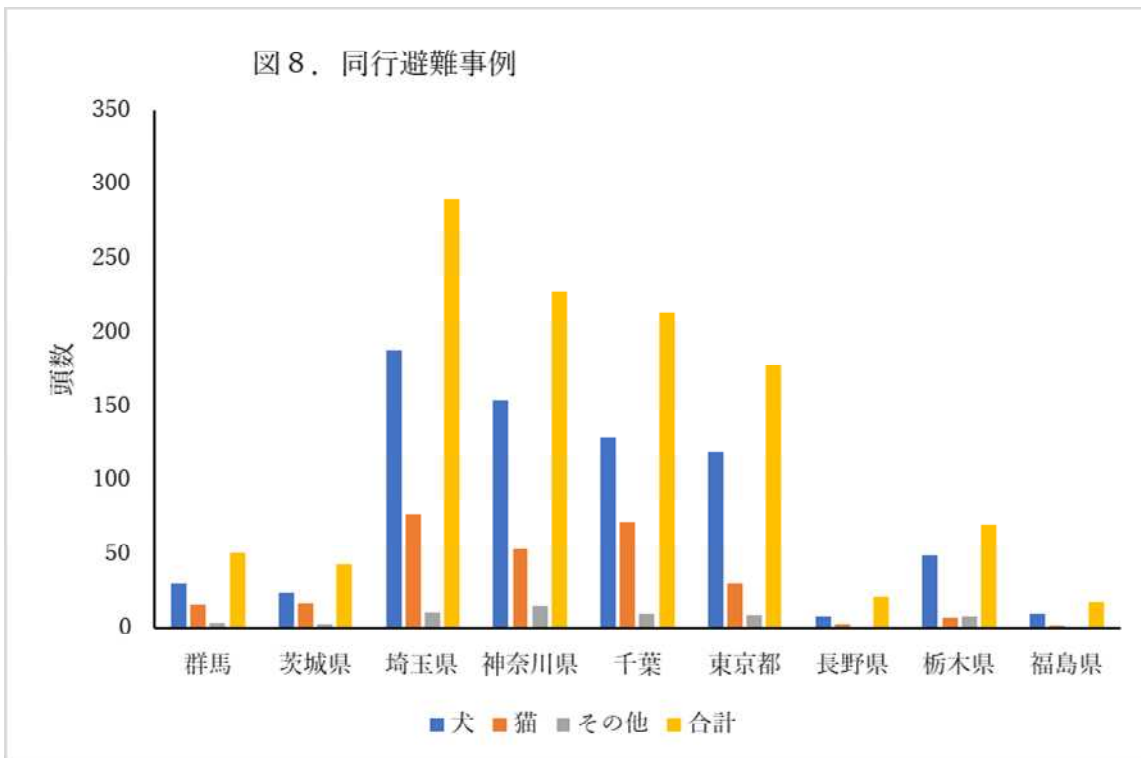
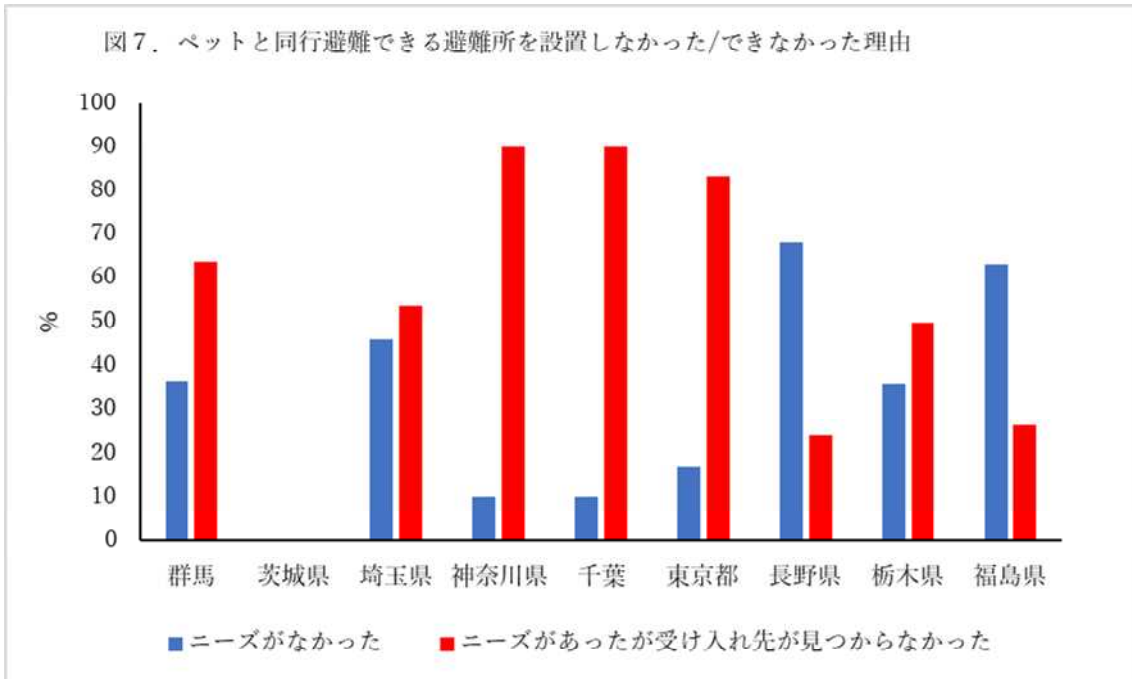
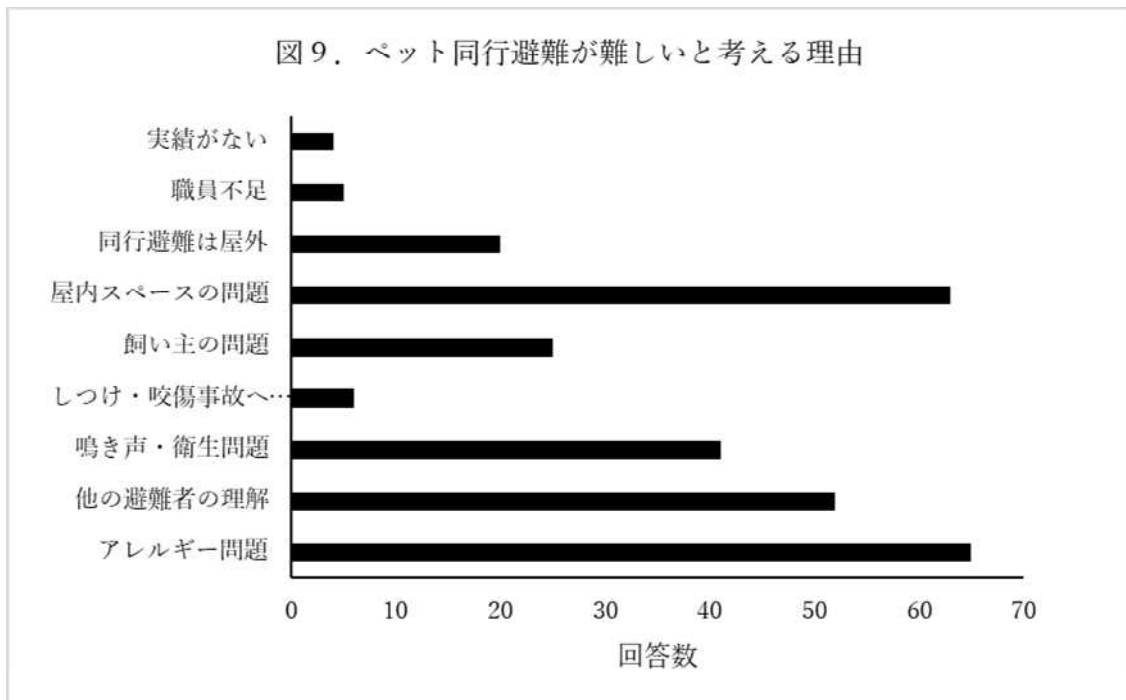


図6. 住民への周知方法







#### 【令和元年度(平成31年度)実装活動まとめと考察】

令和元年度(平成31年度)においては、認定VMAT講習会は、日本獣医師会主体となり、社会実装として認定VMAT講習会を継続し、地方獣医師会を中心とした臨床獣医師の育成を広げる予定である。行政獣医師に関しては、基礎編および実践編を実行することにより、行政獣医師インストラクターを育成し、地域の災害対応のリーダーとして、区市町村の危機管理部局を取りまとめる担い手を育成する。本年度は、岡山県職員が行政獣医師インストラクターとして県庁主体として区市町村危機管理部局を対象に本プロジェクトの研修会と同様の机上訓練を実施した。来年度は、行政インストラクターの育成を強化し、行政インストラクターを主体とした区市町村危機管理部局の取りまとめ研修会を本プロジェクトの研修会として全国的に開催する予定である。

➡行政間の連携強化および区市町村レベルでの災害対応の強化が必要

これまで、動物医療従事者に対する研修会を実施することにより、災害時の動物管理システムの向上を検討してきた。一方で、実際の災害時は、行政の動物部署のみならず、平時には動物に関わることのない危機管理部局が、被災動物管理やペット同行避難などに対応することになり、特に台風19号においては、地域の避難所において、被災動物の取り扱いやペット同行避難で多くの混乱を招いた。台風19号におけるペット同行避難に対する自治体へのアンケート調査により、様々な問題点が明らかとなった。平時からの避難所内でのルール作り、動物の受け入れの可否、住民への周知方法など、具体的な改善案が明瞭化し、地域防災の向上案として、自治体へ情報発信する。

➡ペットに避難所運営マニュアルの作成、ペット同行避難訓練、住民への周知方法の考案

米国からの3名の災害獣医学専門家を招聘したシンポジウムや勉強会の開催により、米国での成功談と失敗談、地方レベルと中央レベルでの災害対応のノウハウ、大学教育の役割等、実地的なディスカッションを通し、日本での啓発の仕方や災害対応向上のための必須条件、今後への具

体策が明瞭化した。

➡多分野獣医師の横断的な連携が必要

来年度は、獣医師や動物医療従事者に対する研修会だけでなく、動物の知識はなくとも避難所運営等に関わる行政部署を巻き込んだ多分野/多業種を対象とした研修会等も検討する必要があると思われる。

### 3. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

#### 3-1. 展示会への出展等

#### 3-2. 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2019年7月14日、15日	認定VMAT講習会	岡山県	VMAT隊員育成のための研修会（60名）	獣医師/動物看護師	災害時の動物管理向上
2019年11月23日、24日	認定VMAT講習会	沖縄県	VMAT隊員育成のための研修会（60名）	獣医師/動物看護師	災害時の動物管理向上
2019年7月24日、25日	行政災害派遣人材育成研修会基礎編	東京都	行政獣医師の災害対応に関する基礎研修（30名）	行政獣医師	災害時の動物管理向上
2019年8月27日、28日	行政災害派遣人材育成研修会基礎編	大阪府	行政獣医師の災害対応に関する基礎研修（30名）	行政獣医師	災害時の動物管理向上
2019年12月25日、26日	行政災害派遣人材育成研修会実践編	東京都	基礎編を受講した行政獣医師に対する実践的な研修（12名）	行政獣医師	災害時の動物管理向上
2020年2月17日、18日	行政災害派遣人材育成研修会実践編	東京都	基礎編を受講した行政獣医師に対する実践的な研修（22名）	行政獣医師	災害時の動物管理向上
2019年5月27日	市民ボランティア講座	東京都	①動物福祉 ②動物虐待について（50名）	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2019年5月28日	市民ボランティア講座	東京都	①シェルターメディスン、②動物行動学（50名）	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2019年7	展示野生動物の福	東京都	動物園動物の管理。災害対	市民	市民に対する動

月6日、7日	社セミナー		策について (50名)		物に関わる全般的な知識の醸成
2019年8月20日	市民ボランティア講座	東京都	コミュニケーションスキル (50名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2019年9月25日	市民ボランティア講座	東京都	①災害対応、②家庭での応急処置 (50名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2019年12月7日	市民ボランティア講座	東京都	①災害ボランティア入門 ②シェルターでのボランティア活動 (50名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2020年1月11日	市民ボランティア講座	東京都	①野良問題 ②多頭飼育崩壊 (50名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2020年2月27日	市民ボランティア講座	東京都	動物愛護教育について (15名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2020年3月24日	市民ボランティア講座	東京都	動物関連法規について (13名)	市民	市民に対する動物に関わる全般的な知識の醸成
2020年1月11日	国際災害獣医学シンポジウム	東京都	米国の3名の災害獣医学専門家によるシンポジウム (80名)	獣医師	社会における獣医学的ニーズの周知
2020年1月12日	米国災害獣医学専門家との勉強会	東京都	日本の災害対応に関わる獣医師と米国専門家による討論 (20名)	獣医師	日本の災害対応の向上

### 3-3. 書籍、DVD

認定VMAT講習会テキスト第2版、共著（羽山伸一、佐伯潤、皆川康雄、入交眞巳、田中亜紀）、災害動物医療研究会発行、2019年11月

### 3-4. ウェブサイトによる情報公開

### 3-5. 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

### 3-6. 論文発表

(1) 国内誌( 0 件)

(2) 国際誌( 0 件)

### 3-7. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演(国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(2) 口頭発表(国内会議 1 件、国際会議 0 件)

・田中亜紀（日本獣医生命科学大学）、「ペット同行避難」、第25回日本災害医学会、神戸市、2020年2月20日

(3) ポスター発表(国内会議 0 件、国際会議 0 件)

### 3-8. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿(0 件)

(2) TV放映(0 件)

(3) 雑誌掲載(1 件)

・ファームプレス社発行MVM（Modern Veterinary Medicine）誌2020年3月号  
「災害獣医療を考える国際シンポジウム」

(4) 受賞(0 件)

### 3-9. 知財出願

### 3-10. その他特記事項